

指導の手引き

幼児期と児童期の「学び」の 接続の推進に向けて

～「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にして～



兵庫県教育委員会

はじめに

平成30年度から新幼稚園教育要領、新保育所保育指針及び新幼保連携型認定こども園教育・保育要領が全面実施となりました。そこには、小学校の教員と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなどして、幼児教育・保育と小学校教育がスムーズに接続できるように努めることが盛り込まれています。また、新小学校学習指導要領でも、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定を行うなどして、幼児期に総合的に育まれた資質・能力や子どもたちの成長を、各教科等の学びにつなげていくことを求めています。これらのことを踏まえ、各園や小学校では、幼小の学びをつなぐ様々な取組が進められていることと思います。

学びの連続性の確保が求められている今、新小学校学習指導要領にも示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼児期の学びを小学校以降の教育に見通しをもってつなげていく手がかりの一つとなります。そこで、小学校以降の教育とのつながりを意識した接続期の教育課程であるアプローチカリキュラムを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にして作成したり、それをもとにした幼小連携の工夫をしたりすることが必要となります。

本県では、平成27年度から幼児教育支援事業として、アプローチカリキュラムの作成に係る実践研究に取り組んできました。アプローチカリキュラムの作成やアプローチカリキュラムを活用した幼小連携の工夫について研究を進める中で、アプローチカリキュラムを幼小連携に活用するためには、小学校の視点を取り入れ、小学校の教員にも分かりやすいものに改善していく必要があることが分かりました。

そこで、今年度からは「幼小の円滑な接続推進事業」として、実践協力園と接続する小学校が連携しながら、アプローチカリキュラム作成の際に視点となる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を子どもたちの具体的な姿を通して共通理解し、学びのつながりについて検証する取組を行いました。

本冊子は、実践協力園及び実践協力園と接続する小学校における取組を中心に、幼小の学びのつながりについてまとめています。今後、各市町において、地域や各園の実情に応じたアプローチカリキュラムの作成や、アプローチカリキュラムを活用した幼小の円滑な接続の推進へとつながることを願っています。

最後になりましたが、本書を作成するにあたり、ご協力をいただいた幼小接続推進委員会、実践協力園及び実践協力園と接続する小学校の皆様には深く感謝を申し上げます。

も く じ

I 幼児期と児童期の「学び」の接続の推進にあたって

1 幼児期の教育と児童期の教育・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2 接続期における教育課程・・・・・・・・・・・・・・・・	3
3 接続期における課題・・・・・・・・・・・・・・・・	4

II 研究内容

1 研究の目的・・・・・・・・・・・・・・・・	6
2 研究の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・	6
3 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした 学びの姿の分類表の作成について・・・・・・・・	7
4 学びのつながりを理解するために・・・・・・・・	14
5 幼小連携の取組の工夫について・・・・・・・・	23

III 研究のまとめ

1 実践から明らかになったこと・・・・・・・・	28
2 今後の課題・・・・・・・・	29

資料1

- 実践協力園及び接続する小学校が作成した「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした学びの姿の分類表

資料2

- 実践協力園が作成したアプローチカリキュラム

I 幼児期と児童期の「学び」の接続の推進にあたって

1 幼児期の教育と児童期の教育

(1) 幼児期の教育

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本としています。そのため、幼稚園等では、幼児期にふさわしい生活を展開する中で、幼児の遊びや生活といった直接的・具体的な体験を通して、人と関わる力や思考力、感性や表現する力などを育み、人間として、社会と関わる人として生きていくための基礎を培うことが大切であるとされています。

また、幼稚園等では、幼児一人一人が自分なりのやり方やペースで、繰り返し様々なことを体験し、その過程を楽しむ中で、好奇心や探究心をもって問題を見出したり、解決したりする力や、豊かな感性を伸ばすことができるよう、小学校以降の教育の基盤となる「学びの芽生え」を培っています。

(2) 児童期の教育

児童期の教育は、義務教育のうち基礎的な段階の学びを提供することを通して、児童の人間としての調和のとれた育成を目指しています。児童の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を考慮して編成された教育課程のもと、計画的な指導が行われています。

また、小学校では、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動の指導を通して、どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら、教育活動の充実が図られています。このような創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、豊かな人間性とたくましい体を育むとともに、児童が自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」を育むことを目指しています。

(3) 教育の連続性・一貫性

幼児期の教育と児童期の教育には、子どもの発達の段階の違いに起因する教育課程の構成原理や指導方法等の様々な違いが存在します。その一方で、子ども一人一人の発達と学びは、幼児期と児童期とではっきりと分かれるものではないことから、幼児期と児童期における教育の連続性・一貫性が十分に確保されることが求められています。

児童期の教育をはじめとした義務教育は、生涯にわたって自ら学ぶ態度を培う上で重要なものですが、それらは児童期の教育から突然始まるのではなく、幼児期との連続性・一貫性のある教育の中で成立します。このことから、幼児期の教育目標と児童期の教育目標は、「学びの基礎力の育成」という一つのつながりとして捉えることが大切です。

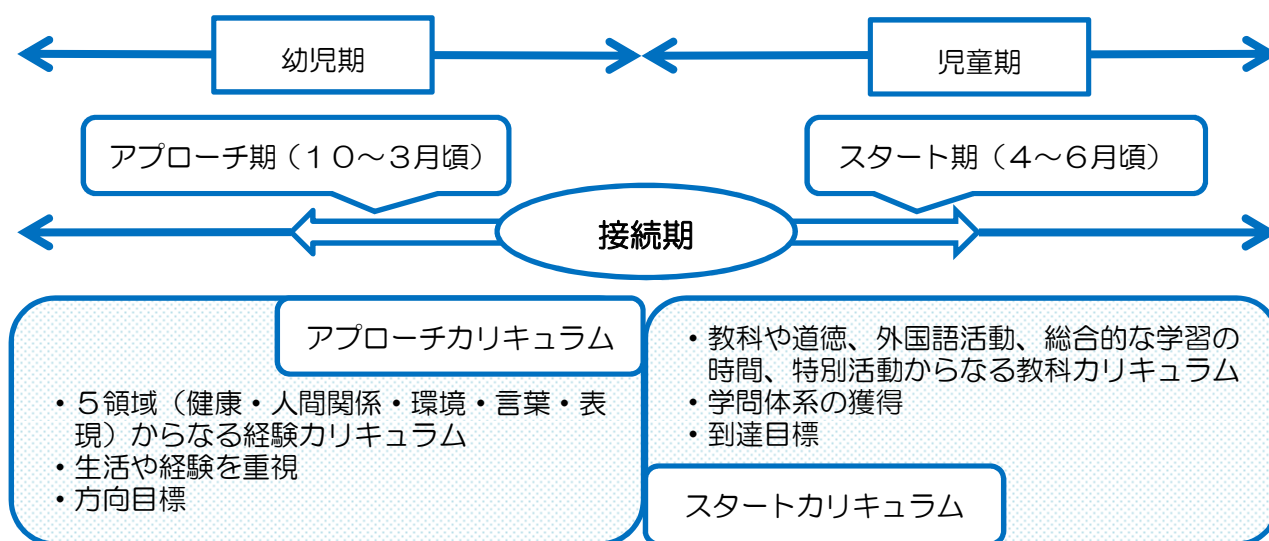
(4) 幼児期の教育と児童期の教育との比較

	幼児期の教育	児童期の教育
教育課程の基準	幼稚園教育要領・保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領	小学校学習指導要領
	健康・人間関係・環境・言葉・表現	国語・社会・算数・理科・生活・音楽・ 図画工作・家庭・体育・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動
教育課程の構成原理	経験カリキュラム (一人一人の生活や経験を重視)	教科カリキュラム (学問の体系を重視)
	方向目標 (その後の教育の方向付けを重視)	到達目標 (具体的な目標への到達を重視)
教育の方法等	遊びを通した総合的な指導	各教科等の学習内容を系統的に指導
学びの形態	<u>無自覚な学び(学びの芽生え)</u> 学ぶことを意識していないが、楽しいことや好きなことに集中することを通じて、様々なことを学んでいくこと	<u>自覚的な学び</u> 学ぶことについての意識があり、与えられた課題を自分の課題として受け止め、計画的に学習を進めていくこと

(5) 幼児期の教育と児童期の教育のつながり

上の表に示したように、幼児期の教育においては、学びが育まれる過程が一樣ではなかったり、学びによって育まれる姿が多様であったりするため、それらがどのように小学校教育における各教科等へとつながっていくのかがイメージしにくく、学びの連続性の確保を難しくしています。

そこで、幼児期の学びと発達の連続性を確保するため、幼児期の終わりから児童期の初めにかけて接続期を設け、幼児期においてはアプローチカリキュラムを、児童期においてはスタートカリキュラムを編成することが求められるようになりました。



2 接続期における教育課程

幼児の発達や学びの連続性を保障するためには、幼児期の教育と児童期の教育の円滑な接続を図ることが重要です。そのためには、幼児期と児童期の教育双方が接続を意識する期間として、接続期を設けることが必要です。接続期は、幼児期の教育から児童期の教育への準備や慣れるための期間ではなく、子どもの発達や学びの連続性を踏まえて捉えなければなりません。接続期とは、就学前の「アプローチ期」と、就学後の「スタート期」を合わせた期間のことです。そして、アプローチ期における教育課程のことを「アプローチカリキュラム」、スタート期における教育課程のことを「スタートカリキュラム」と呼びます。

アプローチカリキュラムは、アプローチ期に身に付けさせたい力や育てたい力を具体的に明らかにし、一人一人がその力の育つ方向に向かっているかを確かめ、保育実践や児童期の教育との接続に役立てる教育課程です。

スタートカリキュラムは、幼児期の教育との円滑な接続を図るため、小学校入学当初において、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫を図るための教育課程です。

接続期の教育課程を編成する際のポイント

- 幼児期においては、今育まれている学びが、どのようにつながっていくのかを見通す。
- 児童期においては、今の学びがどのように育まれてきたのかを見通す。



互いの教育の内容の深さや広がりをも十分に理解した上で、それぞれの教育内容を充実させることが重要であり、一方が他方に合わせるものではないということに留意しなければならない。

また、接続期の教育課程の編成にあたっては、幼稚園と小学校の教員が連携して取り組むことが大切です。このことにより、子どもの実態や地域の課題に関する共通理解に即した教育課程の編成を行うことが可能となります。その結果、幼稚園においては学びのつながりを見通した保育実践を、小学校においては、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かう教育実践を実現することができます。



3 接続期における課題

(1) これまでの研究から

本県では、平成27年度から3年間にわたって、「幼児教育支援事業」を実施し、幼小の円滑な接続を目指し、アプローチカリキュラムの作成に関する実践研究に取り組んできました。

平成27年度

エピソード記録を取り、記録の省察及び保育カンファレンスを行うというプロセスを通して、幼児理解の深まりと教員の保育観の幅の広がりについて検証する。



平成28年度

平成27年度の研究をもとに、実践記録から幼児の学びの姿を可視化し、それらを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「幼児期において育みたい資質・能力」に分類することで、児童期の教育とのつながりをイメージしやすくし、アプローチ期に身に付けさせたい力を明確にする。



平成29年度

2年間の研究をもとに、アプローチカリキュラムの基本枠を示し、アプローチカリキュラムのモデルを紹介するとともに、アプローチカリキュラムを活用した幼小連携の推進を図る。

(2) 3年間の取組を通して見えてきた課題

平成29年度に実践協力園が作成したアプローチカリキュラムを活用し、幼小連携に取り組んだ結果、接続する小学校から様々な意見が挙げられました。作成したアプローチカリキュラムを小学校との連携に有効活用するためには、アプローチカリキュラムの改善が必要であること、実践協力園と接続する小学校の協力を得て、接続する小学校とともに研究を進めていくことが必要であることが明らかになりました。

接続する小学校からの意見

- アプローチカリキュラムに書かれている学びの姿が分かりにくい。
例) 「自分たちで遊び方を考えたり、ルールを決めたりして、共通の目的に向かって活動する」とは、具体的にどのような遊びや活動の場面で見られる姿？
- 幼児期の学びの姿と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の関連が分かりにくい。
例) 「友達の気持ちを受け止め、共感したり振り返ったりして考えながら行動する」は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」で分類すると、「道徳性・規範意識の芽生え」？それとも「協同性」？
- 幼児期の学びと小学校教育における各教科等とのつながりが見えにくい。
例) 「友達と工夫して、秋の自然物を遊びに取り入れる中で、数や大きさ、形などの違いに気付く」は、生活科につながる？それとも算数科につながる？


```
graph TD; Title[課題]; Title --> Issue1[アプローチカリキュラムに書かれている学びの姿が分かりにくい。]; Title --> Issue2[幼児期の学びの姿と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の関連が分かりにくい。]; Title --> Issue3[幼児期の学びと小学校教育における各教科等とのつながりが見えにくい。]; Issue1 --> Solution[解決方法]; Issue2 --> Solution; Issue3 --> Solution; Solution --> Method1[アプローチカリキュラムに書かれている学びの姿を分かりやすくするために]; Solution --> Method2[幼児期の学びの姿と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の関連を分かりやすくするために]; Solution --> Method3[幼児期の学びと小学校教育における各教科等とのつながりを見えやすくするために]; Method1 --> Result[幼小で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共通理解]; Method2 --> Result; Method3 --> Result; Result --> Final[アプローチカリキュラムの改善・充実];
```

課題

アプローチカリキュラムに書かれている学びの姿が分かりにくい。

幼児期の学びの姿と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の関連が分かりにくい。

幼児期の学びと小学校教育における各教科等とのつながりが見えにくい。

解決方法

アプローチカリキュラムに書かれている学びの姿を分かりやすくするために

- ・保育参観の機会を設定したり、普段の保育の様子を録画したりして、小学校の教員に実際の保育を見てもらう。その中で、保育の一場面を捉えて幼児の学びや教師の援助、環境の構成の意図等について説明をし、幼児期の学びについての理解を得る。
- ・アプローチカリキュラムの中に、具体的な遊びや活動を記入する。

幼児期の学びの姿と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の関連を分かりやすくするために

- ・幼小で接続期における学びの姿を抽出し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした学びの姿の分類表を作成することで、具体的な幼児と児童の姿を通して、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について共通理解を図る。（P 8～9を参照）

幼児期の学びと小学校教育における各教科等とのつながりを見えやすくするために

- ・アプローチカリキュラムの中の学びの姿と関連すると思われる小学校の教科等について、検証する。

幼小で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共通理解

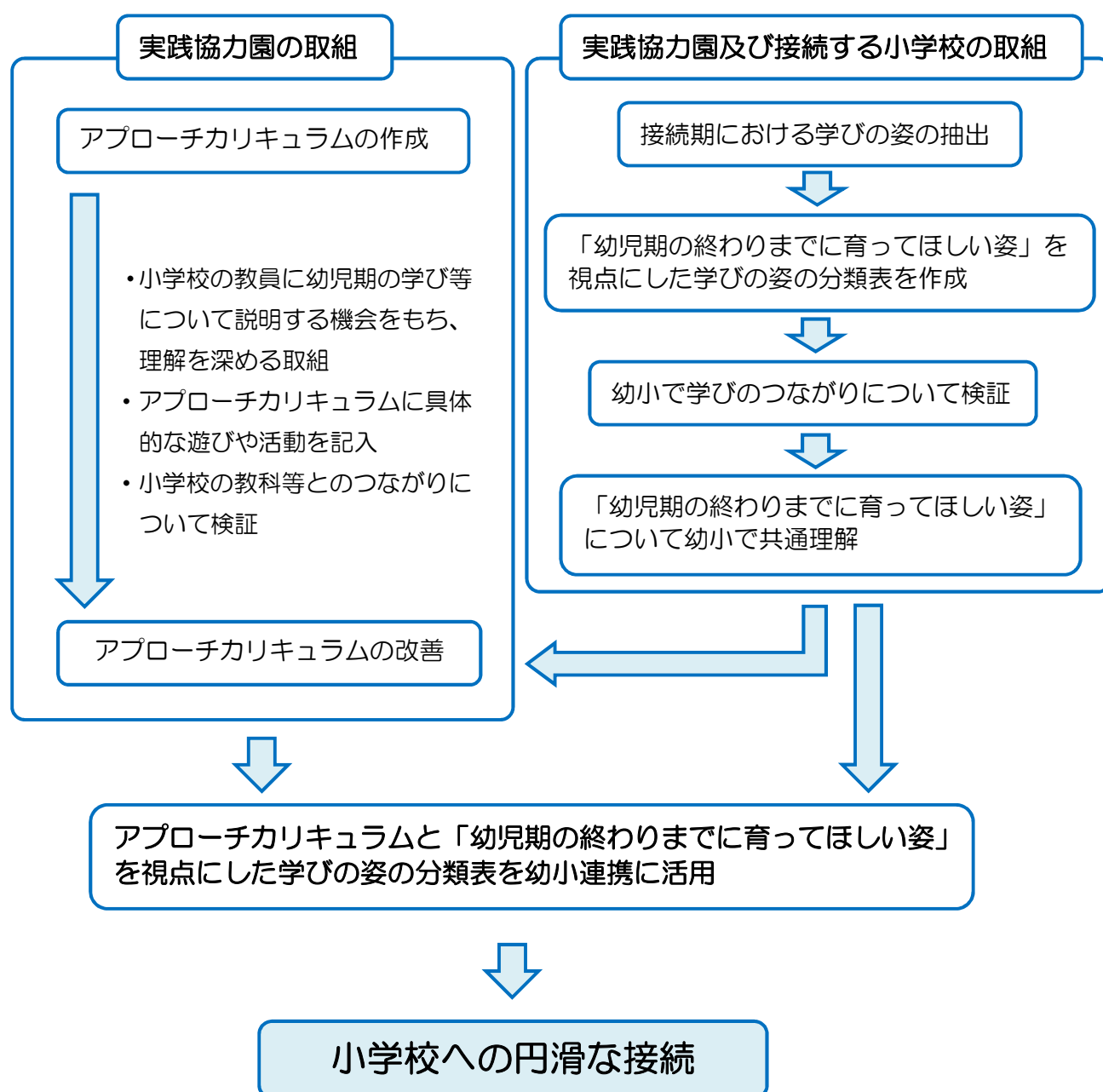
アプローチカリキュラムの改善・充実

Ⅱ 研究 内 容

1 研究の目的

本研究は、実践協力園及び実践協力園と接続する小学校における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を幼小で共有する方法や、小学校の視点を取り入れたアプローチカリキュラムの改善方法等について研究し、より一層の幼小の円滑な接続を目指しています。

2 研究の流れ



3 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした学びの姿の分類表の作成について

(1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼稚園教育要領に示された5領域のねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり、教員が指導を行う際に考慮するものです。これは、新しい小学校学習指導要領にも示されており、今後、幼児期から児童期への発達の流れを理解する手がかりとなっていきます。今年度の研究では、この「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にして、幼児期と児童期の学びのつながりを見ていきます。

健康な心と体	幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切に思う気持ちをもって関わるようになる。
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
言葉による伝え合い	先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

(2) 接続期の学びのつながりの検証について

① 学びの姿の抽出

幼稚園はアプローチ期の学びを、小学校はスタート期の学びを、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にして抽出します。

(様式2)
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした学びの姿の分類

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	遊びや活動内容	学びの姿(具体的な姿)
健康な心と体		
自立心		
協同性		
道徳性・規範意識の芽生え		
社会生活との関わり		
思考力の芽生え		
自然との関わり・生命尊重		
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚		
言葉による伝え合い		
豊かな感性と表現		

幼稚園が作成

(様式3)
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした学びの姿の分類

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	学習内容	学びの姿(具体的な姿)	教科
健康な心と体			
自立心			
協同性			
道徳性・規範意識の芽生え			
社会生活との関わり			
思考力の芽生え			
自然との関わり・生命尊重			
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚			
言葉による伝え合い			
豊かな感性と表現			

小学校が作成

② 抽出した学びの姿の整理

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を中心にし、左側にアプローチ期の学びを、右側にスタート期の学びを整理します。

(様式4)
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした学びの姿の分類

幼児期		幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	児童期		
遊びや活動内容	学びの姿(具体的な姿)		学びの姿(具体的な姿)	学習活動	教科
		健康な心と体			
		自立心			
		協同性			
		道徳性・規範意識の芽生え			
		社会生活との関わり			
		思考力の芽生え			
		自然との関わり・生命尊重			
		数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚			
		言葉による伝え合い			
		豊かな感性と表現			

幼稚園と小学校で連携して作成

③ 幼小で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共通理解

幼小で抽出した学びの姿から、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体的な姿をイメージし、共通理解していきます。その過程で、各園、各校あるいは各地域の特色や課題も明確になっていきます。その際、以下のことについて伝え合うことで、幼児期の教育と児童期の教育の共通点や相違点も共通理解できるでしょう。

幼稚園→小学校

- ・ 幼児期は、遊びを通した総合的な指導を中心とした教育を行っており、幼児は一つの遊びから様々なことを経験し、学んでいます。また、同じ遊びや活動をしていても、一人一人の幼児の楽しんでいることや経験していること、学んでいることは異なります。学びの分類表を作成する際、運動会や劇遊び、お店屋さんごっこ等、同じ遊びや活動内容が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のいろいろな項目に出てくるのは、このような幼児期の学びや発達の特性からくるものです。

小学校→幼稚園

- ・ 小学校の学びの形態から、小学校では、1時間の授業の中で到達する目標を「本時の目標」として明確にしたうえで、授業が展開されます。学びの姿の分類表の各教科等の学びの姿には、単元ごとの目標が多く挙げられています。しかし、各教科等の学習活動以外の休み時間や給食の時間等にも、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながる学びの姿が見られることから、学校生活全般において、学びの姿を抽出しています。

④ 学びのつながりについて検証

学びのつながりを検証する際のポイント

- ◇ 幼稚園と小学校で、似た活動（例：植物の栽培、表現活動等）をしている場合、幼稚園と小学校で学びの姿に関連性があるか。
- ◇ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目の中の一つの姿に注目し、幼稚園と小学校で関連する学びの姿があるか。
- ◇ 学びの姿に、関連性やつながりがある場合、接続期の中で大きな段差がなく、滑らかにつながっているか。
- ◇ 幼児期の遊びや活動内容と、小学校の学習内容にどのようなつながりがあるか。

⑤ 課題解決に向けた取組・アプローチカリキュラムの見直し

学びのつながりについて検証した結果、明らかになった課題について、幼小で解決に向けた取組を行うとともに、学びの姿の分類表をもとに、幼稚園が作成したアプローチカリキュラムについても見直しを行います。

アプローチカリキュラムを見直す際のポイント

- ◇ アプローチ期の学びの姿について、自園の幼児の実態に即しているか。
- ◇ 目指す幼児像（どのような子どもに育てたいか）を接続する小学校と共有できているか。
- ◇ 目指す幼児像に向かって、幼児が必要な経験をすることができるようなカリキュラムになっているか。

(3) スタートカリキュラム作成のポイント

12～13ページに実践協力園及び接続する小学校が作成した「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした学びの姿の分類表から、つながりや関連があると思われる幼小の学びを抜粋し、一覧表にしています。その中から、幼小の学びの姿を丁寧に見ていき、小学校がスタートカリキュラムを作成する際のポイントについて考えてみましょう。

【具体例1】

幼児期		幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	児童期		
遊びや活動内容	学びの姿		学びの姿	学習活動	教科等
固定遊具遊び	・安全な遊び方や危険な遊び方を知り、気を付けて遊ぼうとする。	健康な心と体	・遊具の危険を一緒に考えながら、安全に気を付けて遊具で遊ぶ。	遊具で遊ぼう	体育

幼小でこの学びのつながりを共有する。

幼児期の学びを踏まえた学習活動を計画する。

ポイント

「幼稚園ではどのようなルールで遊んでいたの？」

幼児期の学びを踏まえた学習活動を展開するためには、幼児期に、子どもたちがどのようなルールで遊具で遊んでいたのかを小学校側が把握する必要があります。それぞれの幼稚園等において、安全に気を付けて遊ぶためにどのようなルールがあったのかを、教員と子どもたちで共通理解することで、児童期の学びが、ゼロからのスタートではない“幼児期の学びを踏まえた学び”となります。これが、学びの連続性を保障することにつながります。

【具体例2】

幼児期		幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	児童期		
遊びや活動内容	学びの姿		学びの姿	学習活動	教科等
当番活動 すごろく	・欠席人数調べで人数を数える。 ・サイコロの目の数を数えて進む。	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	・具体物と半具体物を対応させながら、1～10までの数概念を養い、10までの数が表せるようにする。	かずとすうじ	算数

幼小でこの学びのつながりを共有する。

幼児期の学びを踏まえた学習活動を計画する。

ポイント

子どもにとって身近で、関心をもちやすい具体物の準備

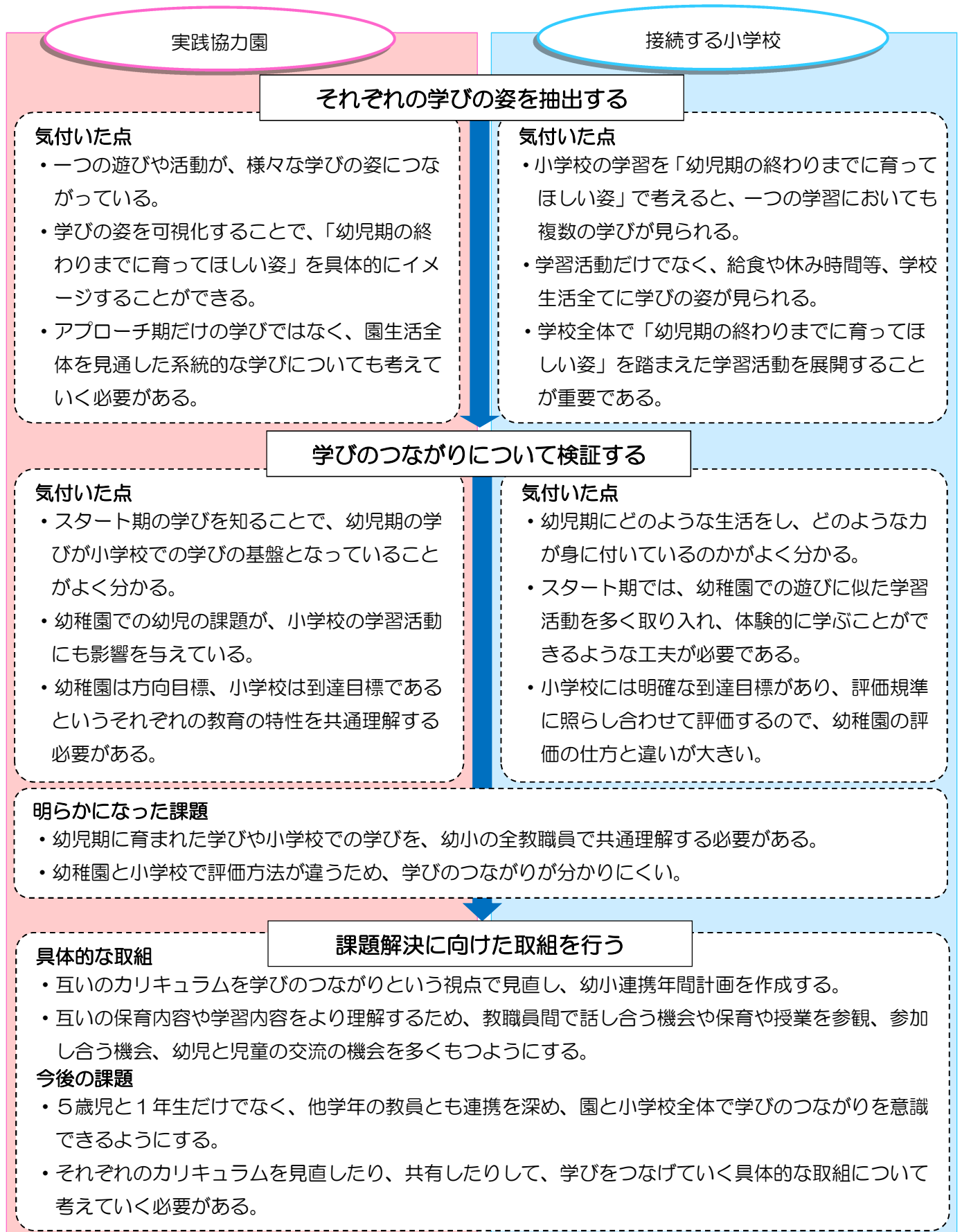
幼児期に、子どもたちは、遊びや生活の中で必要感から数に興味や関心をもち、数を数えたり、足したり、引いたりすることを経験し、感覚的に学んでいるということを小学校側が把握する必要があります。数字や数式と具体物がつながりやすくなるよう、「お店屋さんごっこで品物の数を数えた」「リレーのチームの人数を揃えるために人数を数えた」等、それぞれの幼稚園等でどのような遊びや生活を通して、子どもたちが数に対する感覚を身に付けてきたかを踏まえたうえで、授業の準備をすることが大切です。

スタートカリキュラム作成のポイント

- ◇ 幼児期にどのような生活や遊びをしてきたかを、幼稚園等の教員や子どもたちから聞く。
- ◇ 幼稚園と小学校の教員が連携しながら、スタートカリキュラムを作成する。

(4) 実践協力園及び接続する小学校の取組から

実践協力園及び接続する小学校が、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした学びの姿の分類表を作成し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共通理解する過程で明らかになった点や課題等をまとめています。



(5) 学びのつながり具体例

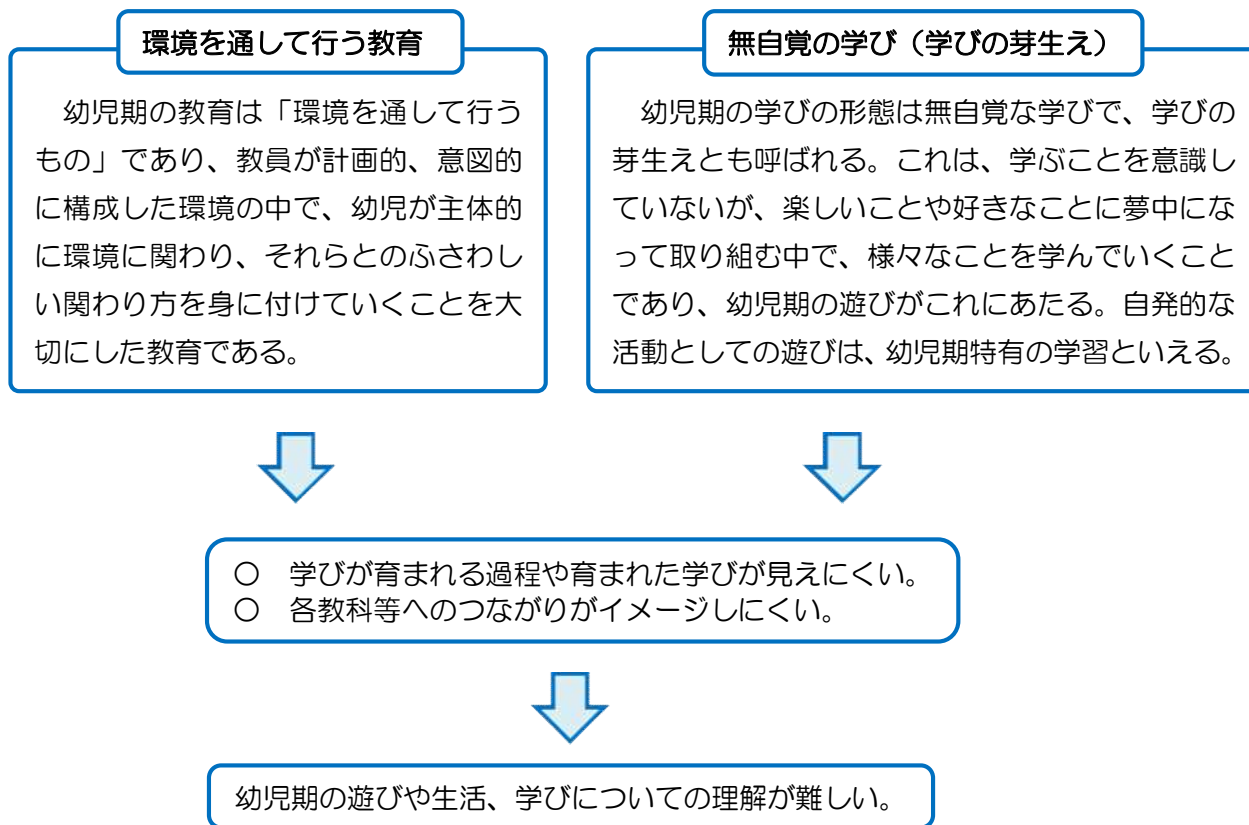
幼児期		幼児期の 終わりまでに 育ってほしい姿
遊びや活動内容	学びの姿（具体的な姿）	
給食 避難訓練 固定遊具遊び	- 給食のルールやマナーを守って、友達と一緒に楽しく食べようとする。 - 避難の方法や避難訓練を知り、身の守り方を学ぶ。 - 安全な遊び方や危険な遊び方を知り、気を付けて遊ぼうとする。	健康な心と体
当番活動 生活習慣	- 自分の役割を自覚し、時には工夫しながら責任をもって果たそうとする。 - 自分の持ち物の整理は自分で行う。	自立心
運動会 劇遊び	クラスで共通の目的をもって話し合ったり、役割を分担したり、協力したりしながら、実現に向けて力を発揮し、遊びをつくりあげる楽しさを味わう。	協同性
遊具の使い方 運動会	- 相手も自分も気持ちよく過ごすために、してよいことと悪いこととの区別を考えて行動する。 - 友達との折り合いを付け、自分の気持ちを調節する。	道徳性・規範意識の芽生え
園外保育 ふれあい運動会	- 自分たちの住んでいる地域に出かけ、景色の素晴らしさに気付いたり、親しみを感じたりする。 - 未就園児の友達と一緒に楽しめる競技を考え、運動会では、競技の手本を見せたり、プレゼントを渡したりして触れ合いを楽しむ。	社会生活との関わり
わくわく遊び こま回し カード遊び	- 鉄棒、跳び箱、雲梯などでは、自分の力に合わせた高さを選んで遊ぼうとする。 - 物との多様な関わりの中で、物の性質や仕組みについて考えたり、気付いたり言葉で説明したりする。	思考力の芽生え
植物の栽培 飼育当番 誕生日会	- 調べたり、世話をしたりすることで大切に育てる気持ちをもつ。 - 園の金魚やメダカ、小学校のウサギなどの餌やりや水替えなど世話をすることを通して、生き物に親しみを感じたり生命の不思議や尊さに気付いたりし、命あるものを大切にしようとする。 - お家の方からの手紙や、友達からのお祝いの言葉などで、自分が大切にされていることに気付く。	自然との関わり ・生命尊重
当番活動 すごろく 積み木 絵本の読み聞かせ	- 欠席人数調べで人数を数える。 - サイコロの目の数を数えて進む。 - 多い、少ない、大きい、小さい、高い、低いなど同じ積み木を使っても使う数や組み合わせ方で違いが生じることに気付く。 - お話の世界や言葉遊びを楽しむ中で、言葉や文字に興味をもつ。	数量や図形、 標識や文字など への関心・感覚
お祭りごっこ 絵本の読み聞かせ	- 自分の知っていることを伝えたり、アイデアを出し合ったりしながら、友達と一緒に活動し、言葉のやり取りを十分に行う。 - 絵本や物語に親しみ、興味をもって聞き、物語や言葉の意味を感じ取り言葉が豊かになる。	言葉による 伝え合い
劇遊び 楽器遊び 異年齢合同ごっこ遊び	- 友達同士で互いに表現し合うことで、様々な表現のおもしろさに気付き、友達と一緒に表現する過程を楽しむ。また、その中でその人物の特性を知ったり、気持ちを考えたりする。 - いろいろな楽器を使って、音楽に合わせて、鳴らす。 - イメージを膨らませ、身近な素材や用具を使って工夫して表現する。	豊かな感性 と表現

幼児期の 終わりまでに 育てほしい姿	児童期		
	学びの姿（具体的な姿）	学習活動	教科等
健康な心と体	・ルールやマナーを守って、好き嫌いなく食べるようにする。 ・正しい避難方法を確認し、自分の身を守る力を身に付ける。 ・遊具の危険を一緒に考えながら、安全に気を付けて遊具で遊ぶ。	給食のやくそく 引き渡し訓練 遊具で遊ぼう	特別活動 生活 体育
自立心	・日直や係、給食当番など、自分の役割を自覚し、自分で考えたり工夫したりしながら活動する。 ・持ち物の整理整頓をし、1日の見通しをもって行動しようとする。	当番活動 学校生活全般	特別活動
協同性	・自分の意見を発表したり、友達の話を聞いたりして、安全に過ごすための目標を決めて実行しようとする。	雨の日の過ごし方 を考えよう	特別活動
道徳性・規範意識の芽生え	・善悪を判断し、進んでよいことをしようとする。 ・自分のことだけでなく、友達のことを考えて助け合える関係が素晴らしいということを感じ取り、身近にいる友達と仲良くしようとする。	遊具の使い方 ぞうさんとおともだち	体育 道徳
社会生活との関わり	・自分たちの生活を支えてくれたり、助けてくれたりしている人々に感謝し、自分ができることをしようとする。 ・園児の気持ちを考えて関わることを通して、自分が役に立つ喜びを感じ、自分の成長に気付く。	みんなだれかに ようちえんのおともだちとなかよくなろう	道徳 生活
思考力の芽生え	・自分の力や遊びに合った場を選ぶ。 ・加法の意味について理解し、加法が用いられる場面を式に表し、計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりする。	てつぼうあそび たしざん（１）	体育 算数
自然との関わり ・生命尊重	・植物を育てる活動を通して、植物も生命をもっていることを感じ取り、親しみをもって世話をすることができるようになる。 ・身近な生き物の成長を優しく見つめ、命あるものを大切にしようとする。 ・誕生日の子へプレゼントのカードを書いたり、誕生日の子がしたい遊びを考えたりして、自分や友達が生まれてきたことを喜ぶ。	きれいにさいて ねわたしのはな うさぎ当番 誕生日会を開こう	生活 特別活動 特別活動
数量や図形、 標識や文字など への関心・感覚	・具体物と半具体物を対応させながら、１～１０までの数概念を養い、１０までの数が表せるようにする。 ・ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の構成要素に気付いたりする。 ・言葉のリズムを楽しみながら詩を音読し、五十音図について理解することができる。	かずとすうじ いろいろなかたち あひるのあくび	算数 算数 国語
言葉による 伝え合い	・見付けたもの・こと・人について分かりやすく伝えるために、言葉や動作で発表できる。 ・絵本や物語に親しみ、興味をもって聞くことによって言葉の意味を感じ取る。	たんけんしたこと をみんなでは なそう 絵本の読み聞かせ	生活 国語
豊かな感性 と表現	・登場人物の行動や会話から気持ちを想像し、場面の様子を思い浮かべながら音読することができる。 ・音の出し方に気を付けて、鍵盤ハーモニカの演奏の仕方に親しむ。 ・はさみの扱いに慣れ、紙の切り方を工夫して、思いに合った形に切り取り、教室が楽しい感じになる飾りをつくる。	とん こと とん 「ど」と「そ」 のいちをおぼえ ましょう チョキチョキか ざり	国語 音楽 図工

4 学びのつながりを理解するために

(1) 幼児期の学びについての理解を深めるために

幼児期の学びが、小学校の教員にとって分かりにくいと言われる背景には、幼児期の教育は「環境を通して行う教育」であり、幼児期の学びが「無自覚の学び（学びの芽生え）」であることが要因として挙げられます。



小学校の教員から分かりにくいと言われる幼児期の遊びや生活、学びについては、実践協力園及び接続する小学校の取組（24～25ページ参照）にもあるように、保育参観や保育の一場面を録画した動画を見ながら、具体的な姿を通して説明していくとよいでしょう。その際、以下のポイントをおさえておくと、幼児期の学びについて、より理解が深まります。

小学校の教員に幼児期の学びを伝える際のポイント

- ◇ 幼児が遊びや生活の中でどのようなことを経験し、学んでいるか。
- ◇ 教員がどのような意図をもって環境の構成や援助を行っているか。

(2) 幼児期において育みたい資質・能力について

幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び保育所保育指針において、幼児期において育みたい資質・能力の3つの柱が共通して示されています。これは、幼児期の教育の特性から、小学校以降のような、いわゆる教科指導で育むのではなく、幼児の自発的な活動である遊びや生活の中で、美しさを感じたり、不思議さに気付いたり、できるようになったことなどを使いながら、試したり、いろいろな方法を工夫したりすることを通して育むこととし、次のように整理されました。

○ 知識及び技能の基礎

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする。

○ 思考力、判断力、表現力等の基礎

気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする。

○ 学びに向かう力、人間性等

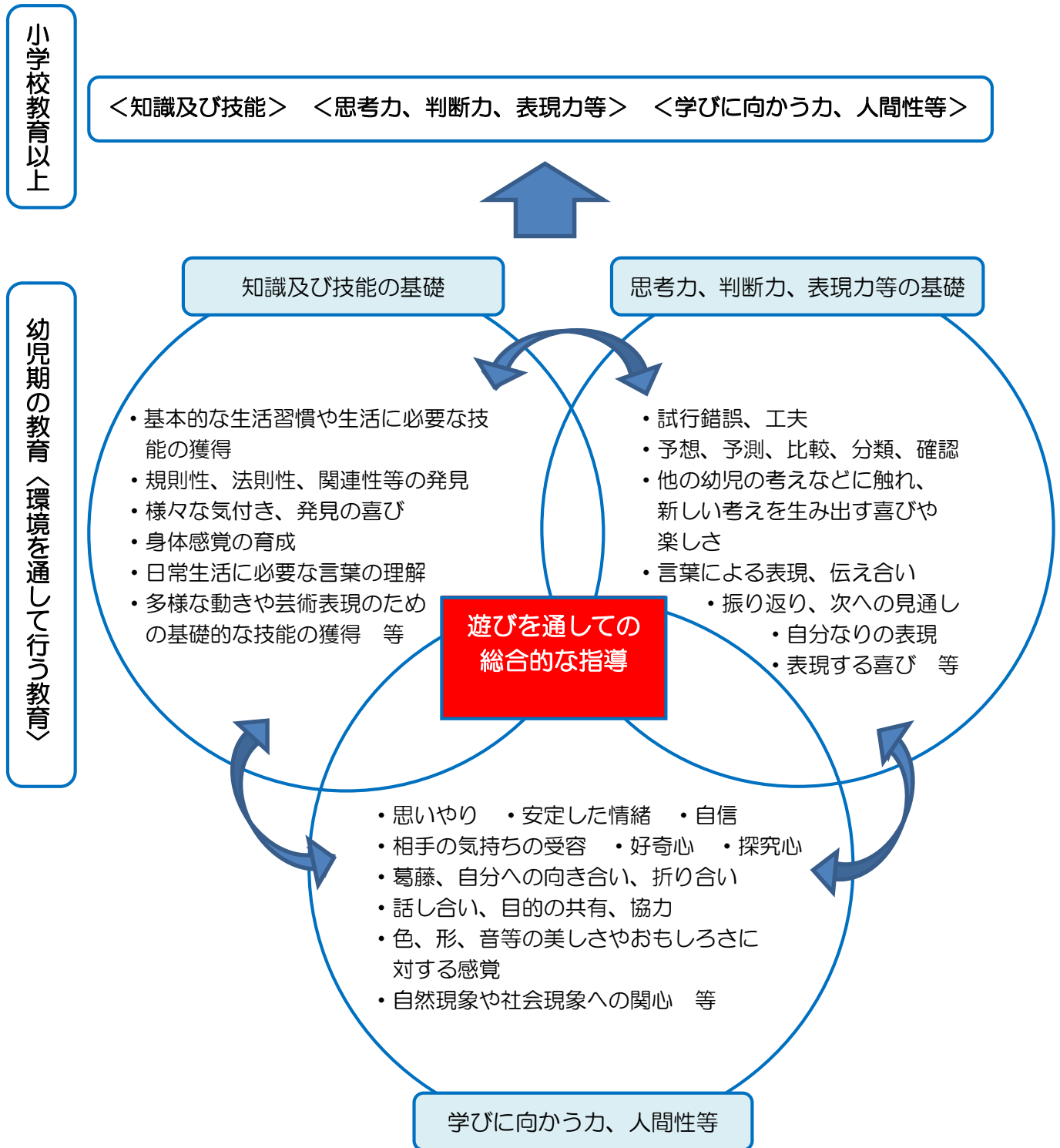
心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする。

幼児期において育みたい資質・能力は、「高等学校を卒業する段階で身に付けておくべき力は何か」という観点や、「義務教育を終える段階で身に付けておくべき力は何か」という観点を共有しながら、各学校段階において、系統的に育てていくこととされています。

このことから、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と同様に、「幼児期において育みたい資質・能力」を窓口にして、幼児期の学びを可視化していくことで、幼児期の学びが小学校の教員にとって分かりやすく、イメージしやすいものとなっていくと考えられます。



(3) 幼児期において育みたい資質・能力のイメージ図



※ 3つの円の中で例示される資質・能力は、5領域の「ねらい及び内容」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から、主なものを取り出し、便宜的に分けたものである。

（４） 幼児期の教育における「主体的・対話的で深い学び」の実現について

幼児期の教育における重要な学習としての遊びは、環境の中で様々な形態により行われており、以下の視点から、絶えず指導の改善を図っていく必要があります。その際、発達過程により幼児の実態は大きく異なることから、教員は柔軟に対応していくことが重要となります。幼児が振り返りや見通しをもって、意欲と意思を働かせるように援助していくことで、幼児同士が伝え合い、協力し合って遊ぶようになります。その結果、幼児は様々なことに気づき、更なる工夫を凝らしたり、友達との関わりを深めたりするようになります。

ここでは、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、様々な遊びの場面における環境の構成と教師の援助のポイントについて考えてみましょう。

「主体的な学び」の視点

- 周囲の環境に興味や関心をもって、積極的に働きかけ、見通しをもって粘り強く取り組み、自らの遊びを振り返って、期待をもちながら、次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

＝砂場遊び＝

トトロの泡の
クリームができたよ！

このクリームでケーキ
がつくれるよ！



冷たくて、気持ちいいよ！
さわってみて！

いいね！ケーキ屋さん
ごっこをして遊ぼう！

＜環境の構成、教師の援助のポイント＞

- ・ 幼児の興味や関心を適切に把握し、幼児が自ら「やってみたい」と思えるような環境の構成をする。
- ・ 幼児が、したいことにじっくりと取り組むことができるような時間や場を、十分に確保する。
- ・ 翌日も続きをして遊びたいという気持ちがもてるように、遊びの振り返りの時間を大切に

* 「主体的・対話的で深い学び」とは、「育成したい3つの資質・能力」を身に付けるための「方法（どのように学ぶかという側面）」で、小・中学校で重視されています。幼児期の教育でも、アクティブ（主体的、対話的）に学ぶことが、より質の高い（深い）学びにつながることを期待されています。ただし、教員が「深い学び」を目指して設定した遊びが、幼児たちにとって本当の意味での主体的な「遊び」となっているかを振り返る必要があります。もし、教員が設定した遊びが一段落した後に、幼児たちが、「先生、今から遊んでもいい？」と聞きに来ることがあれば、教員が設定した遊びは、幼児たちにとって主体的な「遊び」とはなっていないということに留意しましょう。

「対話的な学び」の視点

- 他者との関わりを深める中で、自分の思いや考えを表現し、伝え合ったり、考えを出し合ったり、協力したりして自らの考えを広め深める「対話的な学び」が実現できているか。

＝お店屋さんごっこ＝

おいしそうだね！

どうやってつくったの？

いらっしゃいませ！
お客さんは、1 列に
並んでください！

どうすれば、もっと
大勢のお客さんが来
てくれるかな？

もっと品物がたく
さんいるね。売り切
れる前に、大急ぎで
つくらなきゃ！



＜環境の構成、教師の援助のポイント＞

- ・ 大勢の友達と関わるような遊びの場を設定する。
- ・ 一人一人の幼児が友達とどのように関わっているかを丁寧に捉えるとともに、自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを受入れたりしながら遊べるように援助する。

「深い学び」の視点

- 直接的・具体的な体験の中で、「見方・考え方」を働かせて対象と関わって心を動かし、幼児なりのやり方やペースで試行錯誤を繰り返し、生活を意味あるものとして捉える「深い学び」が実現できているか。

＝まつぼっくりのけん玉づくり＝

うまく結べないなあ。

ここを持ってあげるよ。
ゆっくりやってみて。



＜環境の構成、教師の援助のポイント＞

- ・ いろいろな素材や材料を準備しておき、幼児が自分で選んだり、試したり、工夫したりしながら遊べるようにする。
- ・ 一人一人の幼児がしようとしていることを読み取り、したいことが実現できるまでの過程を丁寧に見守るとともに、達成感を味わうことができるように援助する。

(5) 保育実践事例から

実践協力園の保育実践事例の中から読み取れる幼児の学びの姿を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「幼児期において育みたい資質・能力」の2つの視点から分類、整理しています。このことにより、幼児が一つの遊びや活動から様々な力が身に付いていることがよく分かり、幼児期の学びの姿の特性について説明しやすくなっていきます。

「はるかのヒマワリと仲良し」 2年保育5歳児6月～9月 三木市立三樹幼稚園

※下線部は学びにつながる幼児の姿

昨年、園の花壇で咲いていた「はるかのヒマワリ」の種が、今年も命をつなげかわいい芽を出した。

- ① 1人1本ずつ自分のヒマワリを育てたことで、ますますヒマワリと仲良くなった。夏休み前には幼児たちの身長を越し、大きな花をたくさん咲かせた。一番上で咲いているヒマワリを見上げ、幼児たちは② 「お空にとどきそうやな。」と、つぶやいた。

ある日、大きなヒマワリにたくさんの種がついていることに気付いた。③ A児「種、いっぱいできてるねん。」B児「この種、黒いねん。」C児「これ、しましま。」A児「おもしろいな！」といつまでも、種を取り続けた。3人はこの後、④ クラスみんなに「種がたくさん取れてうれしかったこと」「4種類の種を分けて箱に入れたこと」を伝えた。すると、幼児たちの意欲が高まり、クラス全員で種取りをすることになった。教員が「背の高いヒマワリの種はどうやって取る？」と尋ねると、「もうお花終わったから抜く？」「そうしよう。」と幼児たち同士で相談し、咲き終わったヒマワリをみんなで抜くことにした。抜いたヒマワリを壁に立てかけておくと、外で見るよりもずいぶん背が高く見え、⑤ ヒマワリの背の高さにも関心をもった。D児「大きいな。」F児「届かへん。」G児「椅子に乗ったら？」C児「高いな。」と話していると、H児が「先生、それこっち向けて。倒したいねん。」と言うので、教員が少しずつヒマワリを倒すと、一番上に手が届いた。H児が「やったー。」と喜びながらヒマワリを床に寝かせた。I児が⑥ 「ぼくが寝てみたら比べられるかも。」と寝てみるが、まだヒマワリの方が大きい。I児が「誰か一緒に寝て。」と言うと、J児が来てI児とつながって寝る。その様子を見ていた幼児たちは、「IくんとJくんの方がヒマワリより大きくなった！！」と満足気だった。

学びの姿	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	資質・能力
① ②ヒマワリの花に種ができたことに気づき、月日の経過や季節の変化を感じる。	自然との関わり・生命尊重 豊かな感性と表現	知識及び技能の基礎
③4種類の種があることに気付くとともに、箱を利用して分類すると色や模様の違いや美しさが明確になり、分けることに意欲をもつ。	数量や図形、標識や文字などへの関心、感覚 言葉による伝え合い 自立心	知識及び技能の基礎 思考力、判断力、表現力等の基礎 学びに向かう力、人間性等
④自分が見付けたことを発表し、クラスの友達に認められることで、自信をもつ。	言葉による伝え合い 思考力の芽生え	学びに向かう力、人間性等
⑤ヒマワリを倒すと、自分たちでヒマワリの高さが測れそうなることを思いつく。	思考力の芽生え 協同性	思考力、判断力、表現力等の基礎 学びに向かう力、人間性等
⑥友達と力を合わせてヒマワリを床に寝かせたり、自分たちも床に寝たりしてみること で、ヒマワリの高さを測ろうとする。	数量や図形、標識や文字などへの関心、感覚 思考力の芽生え	思考力、判断力、表現力等の基礎

※下線部は学びにつながる幼児の姿

遠足で姫路セントラルパークに行き、サファリパークの動物を見たり、遊園地の乗り物に乗ったりした。幼稚園に帰ってきて、遠足で楽しかったこと等を話し合う。

幼児：「セントラルパーク広かったね。」「観覧車大きかったね。」

「パオパオ乗って楽しかったで。」「ジェットコースター怖そうやった。」

「僕たちもセントラルパークの遊園地つくろうよ。」「うん。つくろう。」

「観覧車つくりたい。」「ジェットコースターもつくろう。」

と、楽しかったことやつくりたいものを話し合った。

幼児：①「観覧車はどうやってつくる？何があるかな？」

②「乗るところはペットボトルのキャップはどう？」「ほんとや。いいと思う。」

「ストローもいるよ。」「12本いるね。」

教員：「どうして12本なの？」

幼児：「だってAちゃんがかいてくれた観覧車の乗るところが12個あるから。」

教員：「なるほど、そうだね。」

③A児のかいた観覧車の設計図を見ながらどんな素材でどのようにつくるか話し合い、進めていった。

幼児：「だいぶん、できてきたね。」④「観覧車を回るようにしたいなあ。」

「ほんまや、回ったらええなあ。」「どうやったら回るかな？」

⑤「棒付ける？」と、割り箸を付けてみるが、うまくいかない。

「棒付けても回らん。」「困ったなあ。」

「もう回らんでいいやん。」

と、諦めそうになる幼児がいる。

「いやや、回したい。」「じゃあどうする？」

教員：「このスズランテープを見てごらん。これは回るよ。」

と、素材コーナーに置いているスズランテープを見せてヒントになるようにした。

幼児：「あ！ほんとや、回ってる。」「これいいなあ。」

⑥「やってみよう。」と、トイレットペーパーの芯に割り箸を通し、両サイドに
乗るところを付けてみた。

幼児：⑦「やった、回った。観覧車が回った。」

「見て、回るで。」「やった、やった。」と、喜び合った。



学びの姿	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	資質・能力
①友達と一緒にすることで、一人では思いつかない考えに気付く。	協同性	知識及び技能の基礎
②様々な素材を選びながら、つくりたいものを再現しようとする。	思考力の芽生え	知識及び技能の基礎 思考力、判断力、表現力等の基礎
③ ⑥グループで共通のイメージをもち、試行錯誤しながらつくる。	豊かな感性と表現 協同性	知識及び技能の基礎
④ ⑤自分の考えを言葉にして相手に伝えようとする。	言葉による伝え合い 思考力の芽生え	思考力、判断力、表現力等の基礎 学びに向かう力、人間性等
⑦イメージしたことを再現できるように、諦めず最後までやり遂げる。	自立心 思考力の芽生え	思考力、判断力、表現力等の基礎 学びに向かう力、人間性等

※下線部は学びにつながる幼児の姿

サツマイモ掘りをした数日後、「おおきなおおきないも」の絵本を読むと、「僕たちも潜水艦つくりたい。」と数人が伝えに来了。「先生、紙ちょうだい！」と、A児が絵本の場面のように言う。模造紙を渡すと絵の具で塗り始めた。その様子を見ていた他の幼児たちも参加し始め、①「もっともっと！」と、絵本の中の登場人物のように言いながら塗っている。塗り終わると、A児が中心になり②「明日、あの塗った紙の中に新聞紙を入れて包もうな！」と、どのようにするのかをB児たちと話し合っていた。

次の日、前日に色を塗っていた幼児数人が、色が乾いたかどうかそっと触って確かめていた。紙を囲んで「乾いてる！」「もう新聞紙入れよう！」と包み始めたが、新聞紙がはみ出したり、嵩が低くなったりして、イメージした筒状にはならない。教員は、幼児同士で解決策を考えてほしいと思い、大きな透明のポリ袋に丸めた新聞紙を幾つか入れて置いていた。すると、③C児がそれに気が付き、「袋に入れたら？」とつぶやいた。「Cちゃんいいこと考えたみたい。」と、教員がC児の気付きを代弁して知らせた。何袋か出来たところで、A児が「そろそろ包んでみよう。」と、言った。「もうすぐ完成するよ！」と、周りの幼児たちもうれしそうに話している。しかし、新聞紙入りのポリ袋を模造紙で包んだ瞬間、紙が破れてしまった。A児が④「破れた所、貼ったらいいやんな。」と言って修復しかけたが、テープを貼れば貼るほど、別の箇所がど



んどん破れていく。B児とD児が「なんでなん？」「テープの貼り方が悪いんちがう？」と言い始めたので、「先生も手伝うわ。」と保育者が同じようにやってみたが、破れてしまった。「先生でも破れるんや。」と、幼児たちはがっかりした表情でつぶやく。その後も⑤テープの種類を替えたり、貼る方向を変えたりしたが、うまくいかない。するとB児が、⑥新聞紙が入っている透明のポリ袋を見て、「ナイロン袋やったら破れないやんな？」と、A児に同意を求めた。A児は「うん」と言いながらも不安気だったが、塗った色によく似た茶色のポリ袋があることが分かったと、イメージが繋がったのか、「やっぱり袋、使ってみよう。」と、破れている所に茶色のポリ袋を貼りつけた。⑦その様子を見ていたB児が、「ボロボロになったところは、そのまま入れようか。」と袋の形を利用してかぶせた。他の幼児も参加し、おいも潜水艦の完成に向けてみんなで生き生きと修復していった。

学びの姿	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	資質・能力
①絵本の中の登場人物になりきり、表現することを楽しむ。	豊かな感性と表現	思考力、判断力、表現力等の基礎
② ③友達と遊びの目的を共有し、思いを伝え合い、協力して取り組む。	言葉による伝え合い 協同性	学びに向かう力、人間性等
④ ⑤これまでの経験から試したり、新たな方法を考えたりする。	思考力の芽生え	知識及び技能の基礎 思考力、判断力、表現力等の基礎
⑥自分のイメージ通りになるように、考えたり工夫したりして達成しようとする。	自立心 思考力の芽生え	学びに向かう力、人間性等 思考力、判断力、表現力等の基礎
⑦失敗しても、諦めずに最後までやりぬく。	自立心	学びに向かう力、人間性等

※下線部は学びにつながる幼児の姿

幼稚園で黒大豆の栽培をしようと計画しているときに、3年生も同じ頃に地域の方と黒大豆を育てるという話を聞き、3年生が学んだ黒大豆の育て方を幼稚園児に教えに来てもらうよう依頼した。

幼稚園に来てくれた小学生から、①今まで「くろまめ」と呼んでいた豆が「くろだいず」と呼ぶことや、豆をまいてまた豆が実するという話を聞き、幼児たちは驚きでいっぱいの表情になった。そして、②実際に豆をまいて育てる順序を絵で示しながら教えてもらった。最後に「質問はありませんか？」と小学生が尋ねると「はい！」と数人の手が挙がった。③A児が「どうして、豆をまくのに土がいるんですか？」と質問をすると、「土を入れないと、根っこが伸びないからですよ。」と教えてもらい、教えてもらったA児は、満足気にしていた。説明を聞いた後、小学生とペアになり、④一緒にポットに黒大豆の種蒔きをした。小学生に優しく声をかけてもらい、安心して取り組んでいる。最後に「芽が出たら、どうしたらいいかな。」と小学生に尋ねると、小学生が「芽が出たら知らせてください。次にどうするか、教えに来ます。」と言ってくれた。それを聞いた幼児は⑤「また、幼稚園に来てくれるんやって！」「芽が出るの、ちゃんと見とかなあかな！」と友達と話し、楽しみにしている。

みんなで⑥どこにポットを置いておくか相談し、登園後すぐ見られる場所に置くことにした。

数日が経ち、⑦毎日観察していた幼児が発芽に気が付いた。「先生！見て！」「みんなも、早く！」と興奮している。「わあ！すごいね！」と笑顔で受け止め、⑧他の幼児へ伝え合う様子を見守った。「芽が出た！かわいい！」「早くお姉ちゃんたちに知らせないと！」と大騒ぎになった。「どうやってお姉ちゃん、お兄ちゃんに知らせる？」と尋ねると、⑨「手紙を書こう！」と言い、数人で手紙を書き始めた。



学びの姿	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	資質・能力
①小学生と活動することを楽しむ。	社会生活との関わり	学びに向かう力、人間性等
②小学生の話を聞き、自分なりにイメージを膨らましたり、質問することを考えたりする。	思考力の芽生え	思考力、判断力、表現力等の基礎
③疑問に思ったことを自分の言葉で伝えたり、教えてもらったりする。	思考力の芽生え 言葉による伝え合い	思考力、判断力、表現力等の基礎
④小学生と種蒔きをする中で、自分なりに頑張ってみようとする。	自立心 協同性	学びに向かう力、人間性等 知識及び技能の基礎
⑤ ⑥ ⑦毎日観察や世話をする中で、変化に気付いたり、興味や関心を深めたりする。	健康な心と体 自然との関わり・生命尊重	学びに向かう力、人間性等 思考力、判断力、表現力等の基礎
⑧発見したことを教員や友達に、言葉や自分なりの表現で伝える。	豊かな感性と表現 言葉による伝え合い	学びに向かう力、人間性等 知識及び技能の基礎
⑨小学生に知らせる方法を考え、手紙を書いて伝えようとする。	思考力の芽生え 数量や図形、標識や文字などへの関心、感覚	思考力、判断力、表現力等の基礎 学びに向かう力、人間性等

5 幼小連携の取組の工夫について

(1) 交流活動を通して

平成22年11月、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議報告「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について」において、接続の5段階が示されています。

<接続の段階>

ステップ0	連携の予定・計画がまだない。
ステップ1	連携・接続に着手したいが、まだ検討中である。
ステップ2	年数回の授業、行事、研究会などの交流があるが、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていない。
ステップ3	授業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている。
ステップ4	接続を見通して編成・実施された教育課程について、実践結果を踏まえ、更によりよいものとなるよう検討が行われている。

現在、多くの地域で「ステップ2」から「ステップ3」の取組が行われています。幼児期の教育と小学校教育の接続の取組が充実していくためには、幼小の取組について「何が、どこまで、どのように進んでいるのか、どのような成果を得ているのか」という視点で振り返ってみる必要があります。具体的には、次の4つの視点が挙げられます。

- ① 幼児期の教育と小学校教育について、相互理解が図られているか。
- ② 幼児と児童の交流は、単なるイベントになっていないか。
- ③ 教員同士の交流において、個々の子どもの育ちが小学校教育に受け継がれる話し合いがなされているか。
- ④ 接続期のカリキュラムは、子どもの実態を踏まえているか。

幼児と児童の交流や教員同士の交流は、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のための手段の一つです。そこには、明確な目的や計画はもちろんのこと、何よりも幼児と児童、教員同士にとって互恵性のある取組でなければなりません。交流を行えば、接続ができているという錯覚に陥りがちですが、これらの視点で接続について振り返ることにより、それぞれの地域の実態に応じた、効果的な接続へと充実させることができます。幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を小学校へつなぐとともに、相互の教育について理解を深める話し合いを積み重ねていくことが大切です。



(2) 実践協力園及び接続する小学校の取組

① 教員同士の交流から

三木市立三樹幼稚園・三木市立三樹小学校の取組

<取組内容>

接続期の学びの姿について、共通理解と協力連携を図るための幼小合同研修会を開催した。

- ・ 5月 幼小合同研修会

幼稚園保育公開、小学校1年1組生活科・2組算数科授業公開、研究協議と助言

- ・ 7月 小学校校内研修会

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の10項目」（以下「10の姿」）、接続期における教育課程（スタートカリキュラム）について全教職員で共通理解を図った。

- ・ 8月 幼小合同研修会

「10の姿」それぞれの内容と幼稚園での学びの実際（動画視聴）について理解し、その後、意見交流を行なった。

- ・ 10月 幼小合同研修会

2年2組算数科授業公開、研究協議と助言



<成果>

- ・「10の姿」を中心に子どもの姿を見つめ直すことで、接続期の学びの姿が具体的になった。また、他の研修にも互いに参加し合うなど、幼小の教員同士の相互理解と行動連携が一層深まった。

<今後の課題>

- ・ 幼小相互に学びをつなぐ指導の創意工夫とカリキュラムの改善を図っていく必要がある。

姫路市立広畑第二幼稚園・姫路市立広畑第二小学校の取組

<取組内容>

- ・ 幼児や児童の実態を把握し、幼小連携年間計画を作成した。
ねらいやめあてを明確にし、その時期に育てたい姿を共通理解しながら取り組めるものにした。

- ・ アプローチカリキュラムや「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした学びの姿の分類表を作成し、学びのつながりを検証した。

- ・ 幼小連絡会や交流後の振り返りなどで、成果や課題を話し合う機会をもち、相互理解を図った。



<成果>

- ・ 互いの保育（学習）内容を知る機会となった。
- ・ 幼児期の学びの姿を知ることで、各教科等（特に生活科）へのつながりを理解し、授業の組み立て方を見直すようになった。
- ・ 小学校の具体的なめあてを知り、保育の参考になった。

<今後の課題>

- ・ 連携後の振り返りについて意見交換し、次に生かせるようにする。
- ・ それぞれの専門性や独自性を考えながら、意味のある交流を計画する。

朝来市立中川こども園・朝来市立中川小学校の取組

<取組内容>

- ・アプローチカリキュラムの検証とスタートカリキュラムの作成について、講師を交えて園小合同研修会を行った。
- ・5歳児と1年生で地域の森へ「秋みつけ」の交流会を計画し、実施する前に担任同士で下見に行き、情報交換や意見交換を行った。



<成果>

- ・合同研修会では、講師、管理職、担任、指導主事の参加により、本質的な意見が出て、園小接続期カリキュラムの方向性が決定した。
- ・担任同士の交流会の下見を兼ねた情報・意見交換で、接続期カリキュラムに関する話の他、互いの保育、教育に対する思いや悩みも話し合うことができ、理解が深まると共に親近感が増した。
- ・小学校で必要な数や量の概念等を、幼児が遊びや生活の中で捉えられるような環境づくりができるようになった。

<今後の課題>

- ・園小接続期カリキュラムがより有用に機能するように、見直しをしていく。
- ・教職員間で継続的な交流を図り、情報交換をもとに課題の共通理解、改善への協力体制をとっていく。

篠山市立古市幼稚園・篠山市立古市小学校の取組

<取組内容>

- ・アプローチカリキュラムと「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした学びの姿の分類表を活用し、接続期の学びの姿について共通理解を図るための幼小合同研修を行った。
- ・幼稚園の教員が、小学校のスタート期にあたる6月にT2体験（幼稚園の教員が小学校1年生の授業に、T2として参加）をし、学習活動の実態や児童の実態を知り、アプローチ期とスタート期において配慮したいことを探り、幼稚園と小学校の教職員間で共有するための研修を行った。



幼小合同研修会

<成果>

- ・小学校の教員からのアドバイスを取り入れることで、アプローチカリキュラムが双方から見やすくなり、改善と充実を図ることができた。
- ・学びの姿を具体的に伝え、話し合うことにより、育ちや学びのイメージを共有しやすくなった。
- ・実際にT2体験をしてみることで、より具体的に実態を知り、保育や授業に生かす手だてが見えてきた。



幼稚園教諭のT2体験

<今後の課題>

- ・幼稚園と小学校のカリキュラムが滑らかにつながっているかを、子どもの実態を踏まえて見直していく必要がある。

② 幼児と児童との交流から

三木市立三樹幼稚園・三木市立三樹小学校の取組

<取組内容>

- ・日常的な交流（毎日の登校園・三樹小学校区5歳児は児童とともに集団登園）
（一緒に遊ぼう・毎週火曜日木曜日、給食後の休憩時間に園で交流）
- ・イチゴ交流（5月）（園の畑のイチゴを1年生に届ける。お礼に児童から手紙や折り紙が届く。）
- ・1年生との集団遊び交流（1組・2組 それぞれ2回）
- ・迷子のこいのぼり搜索（幼児が小学校全クラスに、迷子になっているこいのぼりの搜索依頼）
- ・キュウリ交流（7月）児童が栽培したキュウリを幼児にプレゼントし、キュウリモみを伝授
- ・三樹っ子祭り（7月）全校生の取組に幼児が参加
- ・幼小合同運動会参加（9月）5年生と合同競技
- ・給食交流（10月）6年生教室で給食後、一緒に遊ぶ。
- ・幼小合同音楽会、合同マラソン大会、お芝居ごっこ など

<成果>

- ・互いの生活を身近に感じ、機会を捉えて学びに役立つ活動ができた。また、日常的な交流を基盤にしたことで、無理なく取り組むことができた。

<今後の課題>

- ・教員同士で引き続き互いの教育内容について理解を深めながら、幼児と児童が主体的・対話的に活動し、互いの学びにつなげていけるように、系統的・計画的な視点でカリキュラムを見直す。



姫路市立広畑第二幼稚園・姫路市立広畑第二小学校の取組

<取組内容>

- ・プール交流

5年生とペアになり、おんぶをしてもらい水の中で遊んだり、浮き方を見せてもらったりする。

- ・学校図書室見学

小学校の図書室を見学し、学校司書から図書室の使い方を聞いたり、読み聞かせをしてもらったり、実際に6年生が本を借りているところを見たりする。

- ・生活科交流（広高浜公園・ひろにっこパーク）

近くの広高浜公園で1年生とペアになって秋の木の実や葉っぱ探しをする。幼稚園に1年生を招待し、幼児がつくったひろにっこパーク（遊園地ごっこ）で遊び、その活動の振り返りを一緒にする。



<成果>

- ・何度も交流することで、互いに親しみを感じ、憧れや思いやりの気持ちが芽生えた。
- ・児童の姿を間近に見て、小学校生活への期待が大きくなった。

<今後の課題>

- ・それぞれの発達に即した交流を行い、必要な経験が得られるようにする。



朝来市立中川こども園・朝来市立中川小学校の取組

<取組内容>

- ・1年生と地域の森で「あきみつけ」の交流をする。異年齢ペアでドングリや落ち葉等を探して持ち帰り、後日、1年生が「あきのひみつたいかい」の遊びのコーナーに5歳児を招待して、遊び方を教え、一緒に楽しむ。
- ・5年生が「5・5」交流会を計画し、5歳児を招待した。校内を案内したり、5年生が考えた遊びを一緒に楽しんだりする。
- ・昼休みに小学校の運動場で遊ぶ。

<成果>

- ・幼児と児童が顔馴染みになり、休み時間に園のフェンス越しに言葉をかけ合う等、親しみをもつようになった。また、担任の名前を覚え小学校の教員にも親しみを感じるようになってきた。
- ・何度も小学校に出かけるうちに小学校にも慣れ、入学や学習への期待をもつようになってきた。

<今後の課題>

- ・幼児と児童が円滑な関係にあるか、注意をはらって見守る必要がある。
- ・入学に対しての不安感を取り除くように、園小の教職員間で情報の共有を図り、対応する。



篠山市立古市幼稚園・篠山市立古市小学校の取組

<取組内容>

- ・1年生に幼稚園で過ごした先輩として「安全博士」として来てもらい、遊具の使い方などを教えてもらう機会をつくる。
- ・3年生が地域の方に教わった“黒大豆の栽培”を幼稚園児に教えて、一緒に栽培・収穫・調理して食べる活動をする。
- ・5年生に招待状を書き、幼稚園の「ふれあい運動会」に参加してもらう。
- ・小学校のフリータイムを利用して、幼児が自由に行き来することができるようにする。

<成果>

- ・交流を重ねるごとに幼児と児童が、自然な形で関わり合い、親しみをもつようになってきた。
- ・幼児が小学生に憧れを抱き、就学への期待がますます膨らんできた。
- ・小学生も幼児に分かりやすいように話し方や関わり方を考えたり、伝え方を工夫したりして学ぶことが多くなった。幼児は安心して関わりを広げるようになった。
- ・保育活動や幼児の姿を小学校の教員や児童に理解してもらうことができた。

<今後の課題>

- ・幼児と児童の関わりの中での、お互いの学びをさらに丁寧に読み取り、幼小の教職員間で意見交流して、よりよい交流につなげていく必要がある。



6年生に幼稚園のオオムラサキのエサを作ってもらう園児

Ⅲ 研究のまとめ

1 実践から明らかになったこと

(1) 幼児期の学びと児童期の学びのつながりについて

これまで、つながりが見えにくい、とされていた幼小の学びについて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点として取り上げたことによって、アプローチ期とスタート期には、多くの関連した学びの姿があることが分かりました。また、この「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」という視点から、学びの姿を見ていくことで、具体的な子どもの姿をイメージすることができるようになり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは、こういったものを幼小で共通理解することができました。

その結果、幼稚園では、今の生活や経験が小学校以降の教育にどのようにつながっていくのかを見通し、そのことを意識しながら日々の保育実践に取り組むことができるようになりました。また、小学校では、幼児期の経験や学びを踏まえたうえで、スタートカリキュラムの編成や、指導内容の充実が図られることにつながりました。

学びの姿の分類表を作成し、アプローチ期とスタート期の学びのつながりを検証していく中で、学びのつながりを意識するあまり、幼稚園側が小学校の学びの姿や教科学習につなげようと「小学校教育の前倒し」になってしまわないように、留意する必要があることも明らかになりました。そして、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、到達目標ではなく、一人一人の幼児の育ちが、その方向に向かっているかどうかを見ていく視点であることも、幼小で共通理解することができました。

(2) アプローチカリキュラムの改善・充実について

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした学びの姿の分類表を作成したことで、幼児期の学びの具体的な姿を小学校に伝え、共通理解することができるようになりました。そのことで、アプローチカリキュラムに書かれている学びの姿を、小学校の教員がイメージしやすくなり、幼児期の学びや経験を踏まえたスタートカリキュラムの編成や指導方法の工夫が行われるようになりました。いったん作成されたアプローチカリキュラムは、幼児期の学びを児童期の教育へとつなぐツールとして継続して活用されるよう、今後も小学校の教員にとって分かりやすく、役立つものへと改善・充実させていかなければなりません。そのためにも、小学校の教員から挙げられる疑問に答えたり、小学校からの視点を取り入れたりするなどの取組の工夫が必要となっていきます。

(3) 幼小の交流活動について

幼小の交流活動については、実践協力園と接続する小学校において、幼児と児童の交流活動や教員同士の合同研修会等、様々な取組が行われました。交流活動を重ねる中で、教員同士がお互いのことをよりよく知ろうとする姿につながるとともに、率直な意見交換ができるようになったことが大きな成果として挙げられます。保育参観や授業参観を何度も行う中で、子どもの姿の捉え方やお互いの指導方法、評価の仕方等、様々な違いや共通点が明確になりました。また、教員同士で何度も話し合うことで、「地域としてどのような子どもを育てていきたいか」ということを意識し、そのために必要な幼稚園等での取組、小学校での取組についても考えていくことができるようになりました。

交流や連携の時間の確保が難しい中でも、これまで行ってきた取組をどのように充実させていくか、無理なく自然な形で交流をすることはできないか等についても検討、工夫がなされました。円滑な接続については、一方向からだけでは実現しません。お互いが理解し合い、歩み寄っていくことから始まります。同じ地域で育つ子どもを支えるという立場から、幼小が連携しながら、互いの教育実践を充実させていくことが重要です。

2 今後の課題

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりに、接続期の学びの姿や学びのつながりについて明らかにし、共通理解することができました。今後は、小学校の視点を取り入れたアプローチカリキュラムの改善・充実に取り組むと同時に、小学校が作成するスタートカリキュラムについても目を向けていかなければなりません。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした学びの姿の分類表で、幼小の学びのつながりを検証したように、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムが、段差なく滑らかに繋がっているか、幼児と児童の実態に即したものとなっているか、といった視点で、幼稚園の教員と小学校の教員が一緒になって見直していく必要があります。

また、複数の幼児教育施設から児童が入学してくる小学校が多いことを踏まえ、幼小の縦のつながりだけではなく、今後は、同じ地域の保育所や認定こども園等、様々な幼児教育施設との横のつながりについても考えていかなければなりません。保育参観や合同研修会等を通じて、同じ地域で育つ幼児の課題を共有し、各施設間の保育実践にも目を向け、共通理解し、それぞれの保育内容の充実に向けて取り組んでいくことが、地域全体の幼小の円滑な接続につながっていくことでしょう。



資料 1

- 実践協力園及び接続する小学校が作成した「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした学びの姿の分類表

三木市立三樹幼稚園・三木市立三樹小学校

姫路市立広畑第二幼稚園・姫路市立広畑第二小学校

朝来市立中川こども園・朝来市立中川小学校

篠山市立古市幼稚園・篠山市立古市小学校

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした学びの姿の分類表

幼児期		幼児期の 終わりまでに 育ってほしい姿
遊びや活動内容	学びの姿（具体的な姿）	
登園降園 給食 幼小合同運動会 ふれあい運動会 生活習慣 歯磨き クッキング	・毎日の幼稚園生活に期待をもち、意欲的に登降園する。 ・給食のルールやマナーを守って、友達と一緒に楽しく食べようとする。 ・自分の力を出し切り、体を動かす心地よさや達成感を味わう。 ・自分たちの好きな音楽をかけて、その音楽に合わせて体を動かして遊ぶ心地よさや楽しさを感じる。 ・走りっこやエンドレスリレーをして遊び、体を十分に動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ・うがいや衣服の調整を自分で気を付けて、健康な生活を送ろうとする。 ・歯の正しい磨き方知り、しっかりと歯磨きをする。 ・自分たちが育てた畑の野菜を喜んで収穫し、その野菜を使って楽しんでクッキングすることで、野菜が苦手な子も少し食べてみようとする。	健康な心と体
幼小合同運動会 幼小合同音楽会 劇遊び 修了式	・自分で考えて行動し、意欲的に運動会に参加しようとする。 ・並ぶ順番や舞台の入退場の仕方などを、自分で考えて行動しようとする。 ・友達に役を譲って自分は我慢したり、違う役を頑張ろうと折り合いを付けたりする。 ・大きくなった自分に自信をもちながら修了の喜びを感じ、4月からの小学校生活に憧れや期待をもつ。	自立心
幼小合同運動会 わくわく遊び ふれあい運動会 幼小合同音楽会 劇遊び	・ダンスでは、年長児が中心となり、場所が分からなかったり、困ったりしている年少児に声をかけ助けながら、みんなでやり遂げようとする。 ・「～する人？」「一緒に～しよう！」など、一緒に遊ぶ友達を自ら見付けようとする。 ・運動会遊びの中で、自分たちの運動会でしたい競技を、アイデアを出し合いながら考える。 ・友達と一緒に気持ちを合わせて、お客様の前で力いっぱい発表しようとする。 ・友達と一緒に共通の目的をもって、お話をつくっていく楽しさを感じる。	協同性
わくわく遊び お祭りごっこ グループ遊び	・遊びの中で必要なルールを考えたり、ルールをつくり直したりしながら遊ぶ。 ・園外に出て、公共の施設を使ったり、交通ルールを守ったりしながら、みんなで約束を守ることが大切だと気付く。 ・自分の順番を守ったり、友達が発表している時は、しっかりと見たり応援したりする。	規範意識の芽生え 道徳性
幼小合同運動会 わくわく遊び ふれあい運動会 お祭りごっこ お正月遊び	・小学生の徒競走や騎馬戦の様子を見たりし、真似しようとしたり、憧れをもったりする。 ・電車に乗ったり、駅で切符を買ったりした経験をもとに電車ごっこをして遊ぶ。 ・未就園児の友達と一緒に楽しめる競技を考え、運動会では、競技の手本を見せたり、プレゼントを渡したりして触れ合いを楽しむ。 ・地域の方が大勢、応援に駆けつけてくださったり、実際にお話をしてくださったり、聞いたりしながら触れ合い、親しみをもつ。 ・お茶会、新春琴の会などの日本の文化や様々な伝承遊びに触れ、親しみをもつ。	社会生活との関わり

幼児期の 終わりまでに 育ってほしい姿	児童期		
	学びの姿（具体的な姿）	学習活動	教科等
健康な心と体	・学校生活や登下校に対して安心感をもち、新しい環境で元気に生活していこうという自信と意欲をもつことができる。 ・学校までの道のりには自分の学校生活が明るくなるよう楽しみにしている人が大勢いることに気づき、学校への意欲と安心感をもって来ることができる。 ・ルールやマナーを守って、好き嫌いなく食べるようにする。 ・当番の時には清潔にし、一定の分量で配膳できるようにする。 ・友達を増やしたり、大勢の友達と一緒にルールを守って遊んだりすると楽しくなることに気づき、伸び伸びと遊んでいる。 ・虫歯になりやすい食べ物を知り、歯の正しい磨き方を知る。 ・正しい磨き方ができる。	げんきにがっこうへいけるかな 給食のやくそく なかよくあそべるかな はをたいせつにしよう	生活 特別活動 国語 道徳 特別活動 生活 音楽 体育 生活 特別活動
自立心	・入学を喜び、楽しく学校生活を送ろうとする気持ちをもとうとする。 ・三樹小学校の仲間入りをしたことを喜び、新しい生活の展開への動機付けとなるようにする。 ・学校の生活時間が一定の間隔で区切られていることに気づき、時間を見ながら自分で動くことができる。	入学式 1年生を迎える会 がっこうのいちにちはどうなっているかな	特別活動 生活 特別活動
協同性	・新しい友達やグループと関わりながら、友達と一緒に歌う楽しさを味わう。 ・園児と仲良くなるためには、どのようなことをしたらよいか話し合い、考えをまとめることができる。 ・遊び歌の語のまとまりや内容、言葉のおもしろさを楽しみながらみんなで声に出して読むことができる。	ぞうさんのさんぽ ようちえんのおともだちとなかよくなろう あいうえおであそぼう	音楽 生活 国語
規範意識の芽生え 道徳性	・学校内の場所ごとのルールを守って行動したり、礼儀正しく話したりしながら、部屋の目的、部屋にあるものや、いる人などを調べる。 ・熊に親切にされた狼の変容を通して、意地悪をした時よりも親切にした時の方がずっと気持ちがいい事を理解し、身近にいる人に親切にしようとする。	がっこうたんけんにいこう はしのうえのおおかみ	生活 道徳
社会生活との関わり	・相手や場面に応じて、適切な言葉遣いで話すことができる。 ・学校の中の場所や人、部屋の意味、場所ごとのマナーに気づき、安心して学校生活を送ることができる。 ・園児の気持ちを考えて関わることを通して自分が役に立つ喜びを感じ、自分の成長に気付く。 ・校外学習にむけて公共マナーを知る。 ・2年生と協力して行動することを知る。	なんていおうかな がっこうたんけんにいこう ようちえんのおともだちとなかよくなろう たのしいこうがいぐしゅうにしよう	国語 生活 生活 特別活動

幼児期		幼児期の 終わりにまでに 育ってほしい姿
遊びや活動内容	学びの姿（具体的な姿）	
わくわく遊び ふれあい運動会 お祭りごっこ お正月遊び 劇遊び	・鉄棒、跳び箱、雲梯などでは、自分の力に合わせた高さを選んで遊ぼうとする。 ・帽子取りの帽子の数を、自分たちだけではなく、見ている人にも分かりやすい方法を考える。 ・製作するための方法や素材などを考え、様々な材料の特徴を捉えて、工夫してつくろうとする。 ・友達と風糸が絡まらないように風の向きなどを考えて走ったり、風を揚げる場所を考えたりしながら遊ぼうとする。 ・コマが長く回るには、どうしたらよいかを、何度も試したり、工夫したり、教え合ったりしながら、何度も練習する。 ・お客様にも見えやすい道具の置き方や場所、動かし方を自分たちで考えようとする。	思考力の芽生え
ふれあい運動会 栽培 お祭りごっこ わくわく遊び	・秋のすがすがしさや空の青さ、高さ、飛んでくるトンボなどに気付き、秋を感じる。 ・畑や一鉢栽培の野菜の生長に興味をもち、実った野菜を見付けて喜んだり、水やりをしたりして世話をする。 ・お祭りの時期のキンモクセイ、ギンモクセイの香りやすがすがしい空気を感じる。 ・プリンのカップなどを利用して、氷づくりを楽しんだり、歩くと霜柱が「ザクザクッ」という音を発見したりして、冬の自然現象に気付く。	自然と 生命の 関わり ・自然と 生命の 関わり
わくわく遊び ふれあい運動会 お祭りごっこ 栽培 給食活動 お正月遊び	・竹馬や縄跳び、フープなど、自分ができるようになった数を数えながら遊ぶ。 ・玉入れ、サッカーなど、点数に興味をもって遊ぶ。（得点表を使って遊ぶ。） ・競技の勝敗時の数をいろいろな方法で数える。 ・それぞれの地区の屋台の形や色、屋根や装飾品（えび、しゃちほこ、龍など）に興味をもち、重さや付ける向き、数などを感じながらつくっていく。 ・ハッピーの背中や各町の字に興味をもち、ハッピーや各町の文字を書こうとする。 ・収穫した野菜を袋詰めにしたたり、分けたり、並べたりしながら、大きさや形に関心をもつ。 ・牛乳の数（４～５個）のかたまりが見てすぐ分かるようになる。 ・かるた取りを楽しみながら絵や文字に関心をもち、取ったかるたを１枚ずつ重ねたり、数枚ずつ並べたり、座布団の形（正方形）や大きさに気付いて並べたりしながら、数のまとまりなどに気付く。	標識や 文字の 数量や 図形、 の関心 ・感覚
ふれあい運動会 お祭りごっこ グループ遊び 劇遊び	・各競技、審判の子が、ルールや判定を友達に伝える。 ・自分の思ったことや考えたこと、おかしいと思ったことなどを友達に伝えようとする。 ・友達の頑張りを認めたり、頑張っている友達を応援したりする。 ・自分の知っていることを伝えたり、アイデアを出し合ったりしながら、友達と一緒に活動し、言葉のやり取りを十分に行う。 ・絵本や図鑑で調べたことを、友達に伝わるように話す順番や言葉を考えようとする。 ・お話の世界にイメージを広げ、お話に必要な言葉や台詞、ナレーションを考えて、言葉で表現しようとする。	言葉による伝え合い
ふれあい運動会 わくわく遊び お祭りごっこ 劇遊び	・自分たちで考えたダンスを、体を十分に動かして、伸び伸びと表現する喜びや楽しさを味わう。 ・うれしかったことや楽しかったこと、悲しかったことなどの思いを友達に伝えようとする。 ・龍の絵やえびやしゃちほこの装飾など、工夫したり、友達と一緒に考えたりしながら、楽しんで製作に取り組もうとする。 ・お話のイメージを広げ、友達と共有しながら、感じたこと、考えたことを素直に体や製作などで、伸び伸びと表現する楽しさを味わう。	豊かな感性と表現

幼児期の 終わりまでに 育ってほしい姿	児童期		
	学びの姿（具体的な姿）	学習活動	教科等
思考力の芽生え	・自分の力や遊びに合った場を選んでいる。 ・いろいろな鉄棒遊びの遊び方を工夫している。 ・相手や場面に応じて、適切な言葉遣いで話すことができる。 ・コースの走り方や、引き継ぎ方を知り競争する。 ・主人公のくまさんが、どんなことを思ったのか想像しながらお話を楽しむ。 ・自分の体験を思い出し、姿勢や話し方に注意して順序立てて話すことができる。 ・説明の順序や内容を考えながら読むことができる。 ・文章の内容と自分の経験や知識とを結び付けることができる。	てつぼうあそび なんていおうかな かけっこ・リレー はなのみち おもいだしてはなそう くちばし	体育 国語 体育 国語 国語 国語
自然と 生命の 関わり の 尊重	・動物の赤ちゃんや植物の発芽からのいきいきとした命を感じ取り、すべての生命あるものを大切にしようと思えることができる。 ・身近な植物に興味・関心をもち、それらに生命があることに気付くとともに、植物を大切にすることができるようにする。栽培を通して、植物の不思議さ、おもしろさ、素晴らしさに気付く。 ・アサガオの観察、世話を通して、生長の喜びを感じながら、植物のおもしろさや素晴らしさに気付く。	うまれたてのいのち ひとつぶのたねから	道徳 生活
標識や文字 数量や図形、 への関心・ 感覚	・10までの数の読み方、書き方、数の系列、大小を理解できるようにする。 ・5までの数の合成・分解を理解する。 ・ものの個数を絵グラフなどを用いて表したり、読み取ったりすることができる。 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。 ・「あいうえお」の文字を正しい筆順で書くことができる。 ・平仮名で濁音を含む単語を書くことができる。 ・空き箱や空き缶などによる立体の組み立てなどを通して、ものの形を認めたり、形の特徴を捉えたりすることができる。 ・立体の面に着目し、写しとったり、その形を活用したりして、絵かき遊びができる。	かずとすうじ うたにあわせて あいうえお かきとかぎ いろいろなかたち	算数 国語 国語 国語 算数
言葉による 伝え合い	・幼稚園やこども園などと違うところを進んで見付けて、自分の言葉で表現したり、気付いたことを教師に伝えたりする。 ・見付けたもの・こと・人について分かりやすく伝えるために言葉や動作で発表できる。 ・友達に知ってもらったことを考え、互いに自己紹介をしあうことができる。出身園以外の児童と名刺を交換して、自分の名前、好きなことを伝える。また、相手の名前と好きなことを聞くことができる。 ・気持ちを話した後に、そのわけを話すことができる。	がっこうのいちにちはどうなっているのかな たんけんしたことをみんなではなそう どうぞよろしく わけをはなそう	生活 生活 国語 国語
豊かな 感性と 表現	・歌詞の内容に沿って体の動きを工夫しながら、声を合わせて歌う楽しさを味わう。 ・「ふででえのぐをぬることをたのしむ」ことを通して、造形表現活動の快さや楽しさを経験させ、心を開き、楽しく活動する力を培う。 ・語や文としてのまとまりや内容、文のリズムに注意しながら声に出して読むことができる。 ・場面の様子や登場人物について想像を広げ、読むことができる。	てとてであいさつ クルクルぐるーり おむすびころりん	音楽 図工 国語

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした学びの姿の分類表

幼児期		幼児期の 終わりまでに 育ってほしい姿
遊びや活動内容	学びの姿（具体的な姿）	
・手洗い、うがい指導 ・運動遊び ・野菜の栽培 ・避難訓練	・健康な生活リズムを通して、自分の健康に対する関心や安全についての構えを身に付け、自分の身体を大切にする気持ちをもつ。 ・寒暖の差に気付き、衣服の調節をする。 ・捕まえたり、よけたりと多様な動きをして遊ぶ。 ・体を動かす様々な活動に目標をもって挑戦したり、困難なことがあっても気持ちを切り替えて乗り越えようとしたりして、主体的に取り組む。 ・食べ物への興味・関心をもち、食べることを楽しんだり、収穫したものに感謝の気持ちをもったりする。 ・避難の方法や避難訓練を知り、身の守り方を学ぶ。	健康な心と体
・身辺整理 ・当番活動 ・コマ回し、竹馬、縄跳び ・生活科交流	・自分の持ち物の整理は自分で行う。 ・自分でできにくいことは教師や友達の助けを借りながらする。 ・欠席調べや給食のあいさつ、掃除などを自分たちで進めていく。 ・頑張る姿を認められ自尊心がもてるようになる。 ・いろいろな活動や遊びにおいて自分なりの目標をもって取り組もうとする。 ・最後まで諦めず、やり遂げようとする。 ・小学校生活への期待をもって見たり聞いたりする。 ・自分たちの成長に気付き自信をもつ。	自立心
・運動会 ・劇遊び ・リレー ・ごっこ遊び	・クラスで共通の目的をもって話し合ったり、役割を分担したり、協力したりしながら、実現に向けて力を発揮し、遊びをつくりあげる楽しさを味わう。 ・友達とアイデアを出し合ったり、役割分担をしたり、必要な物を一緒につくったりしながら遊びを進める。	協同性
・遊具の使い方 ・運動会 ・ドッジボール	・相手も自分も気持ちよく過ごすために、してよいことと悪いこととの区別を考えて行動する。 ・クラスの人々と心地よく過ごし、より遊びを楽しくするためのきまりがあることが分かり、守ろうとする。 ・友達との折り合いを付け、自分の気持ちを調節する。 ・自分たちでルールを考えたり、守ったりしながら遊びを楽しみ進めていく。	規範意識・道徳性の芽生え
・なかよしタイム（異年齢交流） ・運動会 ・祖父母ふれあいデー ・地域の社会的行事 ・ようちえんで遊ぼうDAY（未就園児園庭開放）	・なかよしペアの友達に思いやりをもって関わり、人の役に立つ喜びを感じる。 ・異年齢の友達や未就園児、いろいろな人と交流する。 ・敬老の日に感謝の気持ちをもってプレゼントをつくる。 ・自分の祖父母や身近なお年寄りに親しみを感じ、健康や長寿の気持ちをもてるようにする。 ・地域の伝統的な行事に触れ、一層親しみを感じる。 ・未就園児に優しい気持ちで関わり、一緒に楽しく遊ぶ。	社会生活との関わり
・運動会 ・コマ回し、カード遊び	・作戦を考えながら、遊びや活動を進める。 ・物との多様な関わりの中で、物の性質や仕組みについて考えたり、気付いたり言葉で説明したりする。 ・身近な物や用具などの特性や仕組みを生かしたり、いろいろな予想をしたりし、楽しみながら工夫して使う。	思考力の芽生え

姫路市立広畑第二幼稚園・姫路市立広畑第二小学校

幼児期の 終わりにまでに 育てほしい姿	児童期		
	学びの姿（具体的な姿）	学習活動	教科等
健康な心と体	・手洗いやうがいの効果を知り、進んで実践しようとする。 ・学校生活への期待を膨らませ、学校生活を楽しもうとする意欲をもつ。 ・校庭の固定施設を使った運動遊びの楽しさに触れ、その行いを知るとともにその動きを身に付けようとする。 ・給食準備や後片付けの仕方が分かり、進んで準備や片付けに取り組もうとする。 ・自分の食べる量を知り、時間内に残さずマナーを守って楽しく食べようとする。 ・正しい避難方法を確認し、自分の身を守る力を身に付ける。 ・基本的な交通ルールや交通マナーを身に付けるとともに、危険について気付かせ安全を確認して行動できるようにする。	学校や学級のきまりを守ろう たのしいがっこう 遊具の使い方 給食の準備や後片付けの仕方を考えよう 引き渡し訓練 交通安全教室	道徳 特別活動 体育 特別活動 生活 生活
自立心	・持ち物の整理整頓をし、1日の見通しをもって行動しようとする。 ・掃除の仕方を理解し、一生懸命取り組もうとする。 ・廊下や階段、運動場や教室での過ごし方を理解し、ルールを守って生活しようとする。 ・チャイムの合図を守り、行動しようとする。 ・本の借り方や返し方を理解し、きまりを守って図書室を利用しようとする。	掃除の仕方を身に付けよう 学校や学級のきまりを守ろう チャイムの合図を守ろう 図書室の使い方を知ろう	特別活動 特別活動 特別活動 特別活動
協同性	・自分の意見を発表したり友達の話の聞いたりして、安全に過ごすための目標を決めて実行しようとする。 ・身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりしてみんなと楽しみながら遊びをつくり出そうとする。	雨の日の過ごし方を考えよう なつとあそぼう	特別活動 生活
規範意識の芽生え 道徳性	・順番を守り、誰とでも仲良く運動しようとする。 ・善悪を判断し、進んでよいことをしようとする。 ・自分のことだけでなく、友達のことを考えて助け合える関係が素晴らしいということを感じ取り、身近にいる友達と仲良くしようとする。	遊具の使い方 なにをしているのかな ぞうさんとおともだち	体育 道徳 道徳
社会生活との関わり	・どんな時にどんなあいさつをするのか、その時、互いがどんな気持ちになるのかを考え、進んで気持ちのよいあいさつをしようとする。 ・学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考え、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることに気付く。	あいさつ がっこうのあんぜん、 つうがくろのあんぜん	道徳 生活
思考力の芽生え	・順序に気を付けて正しく読み取り、読み取ったことを教材文の言葉を使って説明する。 ・加法の意味について理解し、加法が用いられる場面を式に表し、計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりする。	どうやってみをまもる のかな たしざん（1）	国語 算数

幼児期		幼児期の 終わりまでに 育ってほしい姿
遊びや活動内容	学びの姿（具体的な姿）	
・園外保育 ・植物の栽培 ・虫捕り ・自然物を使った遊び	・自然に出会い、感動する体験を通じて、自然の大きさや不思議さを感じ、畏敬の念をもつ。 ・四季折々の草花や木の実などの自然の素材や風、氷などの自然現象を遊びに取り入れたり、自然の不思議さをいろいろな方法で確かめたりする。 ・花や葉の色や形に興味をもち、名前を知ったり、調べたりする。季節により育つ植物や咲く花が違うことに気付く。 ・調べたり、世話をしたりすることで大切に育てる気持ちをもつ。	自然との関わり ・自然 ・生命 ・尊重 ・重なり
・正月遊び ・お店屋ごっこ ・縄跳び ・積み木 ・絵本の読み聞かせ ・言葉遊び（言葉集め、しりとりなど）	・文字や様々な標識が生活や遊びの中で人と人をつなぐコミュニケーションの役割をもつことに気付き、読んだり、書いたり、数えたり、使ったりする。 ・文字には多様な機能があることに気付く。 ・数を数えることで数に興味をもつ。 ・多い、少ない、大きい、小さい、高い、低いなど同じ積み木を使っても使う数や組み合わせ方で違いが生じることに気付く。 ・お話の世界や言葉遊びを楽しむ中で、言葉や文字に興味をもつ。	標識や文字 ・数量や図形、 ・の関心 ・感覚
・運動会 ・話し合いの場 ・お店屋ごっこ ・劇遊び ・お別れ会	・相手の話の内容を注意して聞いて分かったり、自分の思いや考えなどを相手に分かるように話したりするなどして、言葉を通して教師や友達と心を通わせる。 ・お店役とお客役に分かれ、必要な言葉を考え、やり取りを楽しむ。 ・友達の頑張りに気付く。 ・劇に必要なものを相談したり、表現や動きを考えたりする。	言葉による ・伝え合い
・絵本の読み聞かせ ・ごっこ遊び ・運動会 ・劇遊び ・楽器遊び ・描画、製作 ・自然物を使った遊び	・お話の世界や他者との言葉のやりとりを通して様々な表現の仕方を知り、自分なりに表現する。 ・友達同士で互いに表現し合うことで、様々な表現のおもしろさに気付き友達と一緒に表現する過程を楽しむ。また、その中でその人物の特性を知ったり、気持ちを考えたりする。 ・気付いたり、考えたり、感じたことを色や形にして表現する。 ・自然の変化や季節の変化に気付き、自分なりに表現する。	豊かな ・感性と表現

幼児期の 終わりまでに 育てほしい姿	児童期		
	学びの姿（具体的な姿）	学習活動	教科等
自然との関わり ・生命尊重	・植物の種を蒔いたり、苗を植えたりして育てることによって、それらの生長の変化に気づき、継続して世話ができるようにする。 ・植物を育てる活動を通して、植物も生命をもっていることを感じ取り、親しみをもって世話をすることができるようになる。 ・野原や公園で、生き物や樹木、草花などに諸感覚を使って触れ合い、自然遊びの楽しさや自然の不思議さに気付くことができる。	きれいにさいてねわたしのはな くさばなであそぼう	生活 生活
標識や文字などへの関心・感覚 ・数量や図形	・言葉への関心をもって促音を含む語を読み書きすることができる。 ・語や文字について関心を高め、平仮名の読み書きに習熟する。 ・言葉のリズムを楽しみながら詩を音読し、五十音図について理解することができる。 ・10までの数の読み書き、数の系列、大小を理解できる。 ・ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の構成要素に気付いたりする。	ねことねっこ ことばあそび あひるのあくび かずとすうじ いろいろなかたち	国語 国語 国語 算数 算数
言葉による伝え合い	・丁寧な言葉遣いで、自己紹介し合うことができる。 ・見つけたものをみんなの前で話したり、友達の話に興味をもって聞いたりする。 ・大事なことを落とさないように聞き、他の人に伝えようとする。 ・身近な自然を観察し、違いや特徴を見付けて伝え合う。	よろしくね ともだちにはなそう きいてつたえよう かんさつしよう	国語 国語 国語 生活
豊かな感性と表現	・自分の感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するのかを考える。 ・器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら曲想を感じ取って演奏を工夫する。 ・言葉のリズムを楽しんで音読することができる。 ・登場人物の行動や会話から気持ちを想像し、場面の様子を思い浮かべながら音読することができる。	すなやつちとなかよし 「たん」と「うん」のリズムであそぼう あめですよ とん こと とん	図工 音楽 国語 国語

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした学びの姿の分類表

幼児期		幼児期の 終わりにまでに 育ってほしい姿
遊びや活動内容	学びの姿（具体的な姿）	
戸外遊び チャレンジタイム 冬野菜の栽培 生活習慣 避難訓練	・戸外で自分の体を十分に動かして遊ぶ心地よさを味わい、いろいろな身体を動かす遊びに進んで取り組み、機敏に動けるようになる。 ・危険な場所、害虫、遊び方が分かり、安全に行動する。 ・「転んでも怪我をしにくい身体」「腰骨を立てた姿勢」を目指し、いろいろな身体を動かす運動遊びを楽しみながら継続して行い、段々と身に付きつつあることを実感する。 ・竹馬、縄跳び、フープ、跳び箱、鉄棒、リレー等の運動遊びを自分で目標を立てて頑張ろうとする。 ・ダイコン、ニンジン等の冬野菜の生長に関心をもち、友達と一緒に世話をし、収穫の喜びを味わうとともに感謝の気持ちをもち、苦手な物も進んで食べようとする。 ・身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの正しい方法を身に付けたり、状況に応じて自分で判断して行ったりする。 ・自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な手洗いやうがいや丁寧に行う。 ・「お・は・し・も」や「い・か・の・お・す・し」の約束を知り、災害時の行動の仕方が分かり、保育教諭の指示を聞いて行動したり、住んでいる地区の小学生と顔なじみになり、一緒に避難したりする。	健康な心と体
チャレンジタイム 運動会 竹田城跡登山 当番活動 掃除 生活習慣	・自分なりに目標を立てて、できなくても諦めずに繰り返し挑戦しようとする。 ・毎日練習してきたことを大勢の前で、自信をもって最後までやり遂げようとする。 ・こども園最年長であることの自覚をもち、運動会で他クラスの競技の手伝いをする。 ・友達や保育教諭と一緒に励まし合いながら、竹田城跡に登り切り達成感を味わう。 ・自分の役割を自覚し、時には工夫しながら責任をもって果たそうとする。 ・製作活動や給食の後にごみを拾ったり、友達と協力して箒で掃いたり雑巾掛けをしたりして、最後まできれいにしようとする。 ・整理整頓や身繕い等の生活習慣を身に付け、自分の身の回りのことをきちんとしようとする。	自立心
運動会 異年齢合同ごっこ遊び 雪だるまづくり 発表会	・パラバルーン演技で、みんなの力とタイミングを合わせ、大きく膨らませたりきれいに広げたりし、達成感を味わう。 ・友達と運動会への思いや考えを共有し、それに向かって力を合わせて取り組む。 ・友達と遊びの目的を共有し目的が達成できるように相談したり、役割分担したり、協力したりしながら、一緒に遊びをつくり上げる楽しさや充実感を味わう。 ・小学校の運動場で友達と協力して大きな雪だるまをつくったり、力を合わせてこども園の園庭まで運んだりして、協力する喜びや達成感を味わう。 ・発表会に向かう活動の中で、友達同士で考えを伝え合ったり、友達と一緒に協力してつくり上げたりすることを楽しむ。	協同性
ルールのある遊び みんなで遊ぼう 自由遊び 片付け	・友達との遊びの中で、順番や時間等遊びのきまりの大切さに気付き、守ったり、新たにつくったり、必要に応じてつくり替えたりする。 ・遊びや生活の中で、自分の考えや行動がいつも正しいわけではなく、してよいことや悪いことがあることが分かる。 ・友達や保育教諭の考えを受け入れたり、折り合いを付けたり、攻撃的な言動を抑制できるようになる。 ・異年齢児と共に活動することによって関わりを深め優しく声をかけたり、世話をしたり、思いやりの気持ちをもつようになる。 ・共同の遊具や用具の使い方が分かり、みんなで大事に扱うようになる。 ・「元の場所に戻す」というルールを身に付け、友達も自分も心地よいということが分かる。	規範意識徳の性芽・生え

幼児期の 終わりまでに 育ってほしい姿	児童期		
	学びの姿（具体的な姿）	学習活動	教科等
健康な心と体	・進んで鬼遊びを楽しみ、素早く追いかけたり逃げたり身をかわしたりして、鬼遊びをすることができる。 ・危険な場所、害虫、過ごし方が分かり、場の安全に気を付けて行動する。 ・腰骨を立てて文字を書いたり本を読んだりする。また、くずれてきた時には、すぐに腰骨を立てることができるようにする。 ・ルールを守って、楽しんで鬼遊びをすることができる。 ・水中を歩いたり走ったり、まねっこ遊びをしたりすることができる。 ・水に顔をつけ、水中で目を開けたり口や鼻から息を吐いたり、つかまって浮いたりすることができる。 ・各種の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、基本的な動きを身に付けるようにする。 ・自分で身の回りを清潔にしたり、衣服を着脱したりする。 ・正しい手洗いの仕方を身に付ける。 ・災害時において自らを守る基本的態度を養う。 ・火災発生時における緊急避難方法と経路を知る。 ・避難行動中の約束が、自他の生命を守ることを理解する。	鬼遊び 学校生活全般 学校生活全般 鬼遊び 水遊び 水遊び 全般 学校生活全般 学校生活全般 避難訓練	体育 体育 体育 体育 体育 特別活動
	・日直や係、給食当番など、自分の役割を自覚し、自分で考えたり工夫したりしながら活動する。 ・勉強時間と休み時間の切り替えをし、勉強時間には自席で学習する。 ・脱いだ服を畳む、机上を整える、机の中を整えるなど、一人で整理整頓ができる。 ・自分の言いたいことを言葉で伝えようとする。 ・大勢の前でも物怖じせずに話そうとする。	当番活動 学校生活全般 学校生活全般 学校生活全般 学校生活全般	特別活動
協同性	・友達と相談したり、協力したりしながら、いろいろな形を組み合わせてつくりたいものをつくる。 ・友達同士で相談して役割を決め、グループごとに台詞や動きを考えることができる。 ・たてわり班のチームワークを深め、勝ち負けにこだわらず、みんなで楽しい会にする。 ・自分の準備が終わったら友達のを手伝ったり、声をかけたりする。	いろいろなかたち 音読発表会 ささの葉さらさら運動会 学習全般	算数 国語 特別活動
	・時間を守ることの大切さに気付き、きちんとした生活をしようとする。 ・基本的なあいさつの仕方を具体的に理解し、身近な人々といつも明るく接しようとする態度を養う。 ・日頃自分たちの学校生活を支えてくれたり助けてくれたりしている人々に感謝し、自分ができるところをしようとする心情を育てる。 ・危ない場所や遊びを理解し、危険から身を守るとともに、物や金銭を大切にする節度や節制のある態度を養う。 ・身近な人たちに温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる。 ・学校のルールやきまりを知り、そのルールがある理由を考えようとする。	べんきょうがはじまりますよ あいさつ がっこうにはね きをつけて はしのうえのおおかみ 学校生活全般	道徳

幼児期		幼児期の 終わりにまでに 育ってほしい姿
遊びや活動内容	学びの姿（具体的な姿）	
老人クラブとの交流 小学校との交流 園外保育 竹田城跡遠足 異年齢合同ごっこ遊び 卒園式	・交流活動で地域の高齢者と触れ合い、親しみを感じたり、昔からの生活や遊びの知恵を学んだりする。 ・小学校との交流を通し、小学校に関心をもち、入学に喜びと期待を感じるようになる。 ・自分たちの住んでいる地域に出かけ、景色の素晴らしさに気付いたり、親しみを感じたりする。 ・公共の場でのマナーや約束事を知り、意識して行動する。 ・地域をテーマにした活動を通して、自分たちの住んでいる地域のよさに気付き、地域に親しみや愛着を感じるようになる。 ・卒園式場に掲げられた国旗や市旗に接し、親しみをもつ。	社会生活との関わり
運動遊び 意年連合同ごっこ遊び 冬の事象に触れる 行くだるまづくり 伝承遊び	・どうすればうまくできるか、友達の様子を見たり真似をしたりして、気付いたり工夫したりする。 ・これまでの体験活動を振り返り、新たな活動にどう組み立てるか、友達と試行錯誤しながらその考えを設計図にかいて、考えを整理したり、工夫したりしながらつくっていく。 ・様々な素材や用具と関わり、その性質や仕組みに気付き、特性を生かし、考えて使うようになる。 ・園庭にできた氷や霜柱に興味や関心をもち、絵本で調べ、どのような状況で氷や霜柱ができるかを知り、友達と一緒に考え、確かめようとする。 ・雪だるまづくりで、大きさや重さが変化することや、日向、日陰で溶け方が異なることに気付く。 ・友達や保育教諭があやとりやコマ回し、けん玉などの伝承遊びに取り組む様子を見たり、助言を受けたりしながら、自分で考え工夫し、練習してできるようになり、習得したらできない子に分かりやすく伝えようとする。	思考力の芽生え
サツマイモ収穫 飼育当番 冬の事象で遊ぶ 誕生会	・土の中のサツマイモの出来具合に興味や関心をもち、収穫する喜びを味わい、収穫後は、つるの性質を利用しリースをつくって楽しむ。 ・園の金魚やメダカ、小学校のウサギなどの餌やりや水替えなど世話をすることを通して、生き物に親しみを感じたり生命の不思議や尊さに気付いたりし、命あるものを大切にしようとする。 ・雪や氷、霜柱など冬ならではの自然現象を遊びの中に取り入れて楽しんだり、溶けていく変化に興味や関心をもったりする。 ・自分の誕生日を知り、友達や保育教諭から祝ってもらうことにより、自分が大切にされていることに気付く。	自然との関わり ・生命尊重
サツマイモの収穫 竹田城跡遠足 伝承遊び 構成遊び 異年齢合同ごっこ遊び 年賀状ごっこ	・収穫したサツマイモの数を数えたり、大きさや重さを比べたりしながら、多い、少ない、重い、軽い等の言葉の意味を実感する。 ・青倉駅や竹田駅の時刻表や竹田城跡までの案内図、道路標識などを見て、簡単な標識や文字などに興味をもつ。 ・コマを回す順番やチームの勝敗を記録することで数や文字に興味をもつ。 ・ブロックや構成遊びの玩具などを通して形に触れ、何の形に似ているのか連想したり、立体図形の特徴に気付いたり、左右対称や数や図形に興味や関心をもったりする。 ・お金やチケット、看板をつくったり数えたりする中で数や文字に興味をもつ。 ・簡単な文字を見ながら書こうとしたり、宛名を読んで配達したりする。	標識や文字などへの関心・感覚 数量や図形
異年齢合同ごっこ遊び 絵本の読み聞かせ みんなで話そうの会 卒園式	・活動の中で、自分が思ったことややりたいことを友達に分かるように伝えたり、相手の話を注意して聞いて理解したりする。 ・絵本や物語に親しみ興味をもって聞き、物語や言葉の意味を感じ取り言葉が豊かになる。 ・クラスみんなで話す場で友達や保育教諭とやりとりしながら、自分の思いをみんなの前で伝えられるようになる。 ・卒園式の呼びかけを通して、一年間の思い出や感謝の気持ちを、自信をもって伝えられるようになる。	言葉による伝え合い
運動会 異年齢合同ごっこ遊び 発表会 卒園式	・友達と一緒に音楽に合わせてダンスや体操をしたり、隊形移動したりすることを楽しむ。 ・イメージを膨らませ、身近な素材や用具を使って工夫して表現する。 ・物語をもとに友達とイメージを共有しながら、劇遊びにつくり替え、自分の役になりきり表現し、達成感を味わう。 ・声を合わせたり、リズムを合わせたり、友達の声や音を感じながら歌ったり演奏したりする。 ・きれいな声の出し方を心がけ、心をこめて歌おうとする。	豊かな感性と表現

幼児期の 終わりまでに 育ってほしい姿	児童期		
	学びの姿（具体的な姿）	学習活動	教科等
社会生活との関わり	・学校を探検したり、学校で働く人々と関わったりして、自分も学校の一員であることを感じて楽しく安全に学校生活を送ることができるようにする。 ・自分たちの生活を支えてくれたり、助けてくれたりしている人々に感謝し、自分ができることをしようとする。	がっこうたんけん みんなだれかに	生活 道徳
思考力の芽生え	・増減の意味を、具体的な事象と操作を関連付けて考えることができる。 ・ものの集まりを捉え、数を数え、数を表す考え方を身に付ける。 ・アサガオの双葉と本葉の形や色、大きさの違いに気付く。 ・つるの巻き方に気付く。 ・前後、上下、左右などの方向や位置を表す言葉に着目し、数を用いてももの	ふえたりへったり たねをまこう・せわをしよう	算数 生活
自然との関わり ・生命尊重	・アサガオの双葉と本葉の形や色、大きさの違いに気付き、継続的に世話を ・身近な生き物の成長を優しく見つめ、命あるものを大切にしようとする。	たねをまこう・せわをしよう うさぎ当番	生活 特別活動
標識や文字などへの関心・感覚 数量や図形	・4つの部屋を意識し、とめ、はね、はらいなどに気を付けて丁寧に書く。 ・繰り返しの言葉のおもしろさやリズムの心地よさを感じ取る。 ・10までのものの個数を数で表すよさを知り、進んで用いようとする。 ・10までの数の数概念や数系列、10までの数の合成・分解を理解する。 ・絵グラフをかくて数の多少を比較することができる。 ・ふえると、へると、ちがいは、あわせてなどの言葉から増加か減少を理解することができる。 ・数図ブロックを操作し、「合併」、「増加」、「求残」、「求差」の場面を理解する。 ・上下、左右、前後に並んだ物の位置を、方向や位置を意識しながら表すことができる。 ・自分の名前を丁寧に書くことができる。	ひらがな おおきなかぶ たしざん・ひきざん 学校生活全般	国語 国語 算数
言葉による伝え合い	・自分が育てた花の生長の様子を振り返り、友達や先生、家の人などに伝える。 ・主語と述語に気を付けて話す。 ・聞き手の方を見て話す。 ・絵本や物語に親しみ、興味をもって聞くことによって言葉の意味を感じ取る。 ・朝の一言スピーチで自分の言いたいことや伝えたいことを短い文で話すことができる。	みんなにつたえよう 絵本の読み聞かせ 一言スピーチ	生活 朝タイム 朝タイム
豊かな感性と表現	・グループで話し合った台詞や動きを入れて、自分の役になりきり表現することができる。 ・はさみの扱いに慣れ、紙の切り方を工夫して、思いに合った形に切り取り、教室が楽しい感じになる飾りをつくる。 ・はらぺこあおむしの絵本の読み聞かせを聞いて、はらぺこあおむしの絵をかく。 ・真似をして歌ったり、歌に合わせて体を動かしたりする。 ・拍の流れを感じ取り、体を動かしたりリズムを打ったりする。	音読発表会 チョキチョキかざり はらぺこあおむし うたでなかよしになろう はくをかんじてリズムをうとう	国語 図工 図工 音楽 音楽

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした学びの姿の分類表

幼児期		幼児期の 終わりまでに 育ってほしい姿
遊びや活動内容	学びの姿（具体的な姿）	
サーキット遊び 固定遊具遊び 手洗いやうがい、歯磨き 給食 健康出前教室 掃除・片付け クッキング 避難訓練	・思い切り体を動かす気持ちよさを味わう。 ・汗をかいたときの処理の仕方や、水分補給等で健康な身体を保つためのことを知り、行う。 ・安全な遊び方や危険な遊び方を知り、気を付けて遊ぼうとする。 ・健康な身体づくりに関心をもち、手洗いやうがい、歯磨きを進んで行う。 ・食事の大切さを知り、苦手な食べ物にも挑戦したり、マナーを守ったりして健康な生活の習慣を身に付ける。 ・片付けや掃除の方法を知ったり、きれいになった気持ちよさを味わったりする。 ・自分たちで栽培し、収穫した野菜を調理して食べることを喜ぶ。 ・災害時の身の守り方が分かり、保育者や友達と避難する。	健康な心と体
当番活動 栽培活動 マラソン・リレー コマ回し・縄跳び 行事の司会などをする ごっこ遊び	・当番の仕事を、やり遂げようとする。 ・土を耕したり、マルチシートを張ったりして、栽培物が植えられるように最後までやり遂げようとする。 ・収穫（開花）するまで水やりをする。 ・自分のペースで最後まで走り切ろうとする。 ・目標に向かって、諦めないで何度も挑戦する。 ・自分の役割を最後までやり遂げようとする。 ・遊びの中での役割を、やり遂げようとする。 ・遊びの中でつくろうと思ったものを、最後まで仕上げてつくる。	自立心
ドングリ転がしコースづくり 運動会の競技 生き物の飼育 劇遊び	・段ボール等様々な素材を使ってコースをつくる中で、テープの貼り役や持ち役など、役割分担しながら一つのものをつくり上げようとする。 ・友達と力を合わせ、チームの一員としてゴールを目指す。 ・みんなで生き物の餌やりや水替えなどをする。 ・大道具をみんなのアイディアを生かしながらつくる。 ・それぞれのイメージを出し合い、話し合いながらどんな劇遊びのストーリーにしていくか考えてつくり上げる。 ・劇遊びに必要な道具の出し入れを協力してする。	協同性
鬼ごっこ ケイドロ 大縄跳び ドッジボール 野菜の収穫 仲良しペア活動 保育園との交流 遠足 楽器遊び	・ルールを理解し、守ろうとする。 ・負けて悔しい気持ちを自分の中で調整する。 ・順番を守る。 ・対立や葛藤がある時に納得できるきまりを自分たちで考える。 ・困っている友達を気遣う。 ・食べ物を大切に扱う。 ・みんなで分け合おうとする。 ・小さい子に優しく関わろうとする。 ・自分より小さい子と触れ合い、親しみをを感じる。 ・公共の場でマナーを守る。 ・楽器を丁寧に扱う。	規範意識・道徳性の芽生え
愛育班さんとの交流 ボランティアさんとの交流 地域の人との交流 運動会で国旗に触れる 小学生との交流 学習発表会への参加 園外保育 年中行事 給食センター見学	・交流を通して、自分たちが住んでいる地域に親しみをを感じる。 ・人と関わる心地よさを感じる。 ・受け入れたたり、受け入れられたりする喜びを味わう。 ・自分の国や他の国に興味をもつ。 ・交流を通して、親しみを感じたり、憧れを抱いたりする。 ・就学への期待を膨らませる。 ・自分たちが住んでいる地域のよさを感じる。 ・昔から伝わる行事の由来を知り、今の生活と比べたり結びつけたりする。 ・自分たちの食べている給食を誰がどのようにしてつくってくださっているのかを知り、地域の人や働く人へ感謝の気持ちをもつ。	社会生活との関わり
泥団子づくり いろいろな素材でつくる 劇場ごっこ・お店屋さんごっこ 図鑑で調べる 遊びの話し合い	・どうしたら固い団子がつくれるかを考えながらつくる。 ・友達の泥団子を見ながら、真似したり、工夫したりする。 ・どうしたら思い描いた通りにつくれるかを考える。 ・材料の素材、大きさや長さなどを考えながらつくる。 ・どうしたらお客さんに来てもらえるかを考えて工夫する。 ・疑問に思ったことや不思議に思ったことを調べる。 ・みんなに伝えたいことを、どう言えば伝わるかを考えて言う。 ・どうしたらよりたくさんさんの友達と遊べるかを考える。（ルール・場所・方法等）	思考力の芽生え

幼児期の 終わりまでに 育ってほしい姿	児童期		
	学びの姿（具体的な姿）	学習活動	教科等
健康な心と体	・遊具の危険を一緒に考えながら、安全に気を付けて遊具で遊ぶ。体育の時間に遊具に触れさせた後に、休み時間の遊具遊びにつなげる。 ・食前には手を洗い、机をアルコールで拭き、清潔な状態を保つ。また、食事のマナーを守ったり、苦手な食べ物に挑戦したり、健康な体をつくる。 ・和式や洋式、男子トイレの使い方を知り、トイレを正しく使用方法を学び、排泄を我慢せずに行えるようにする。 ・災害時の身の守り方が分かり、避難経路を確認する。	遊具で遊ぼう	体育
		給食の準備の仕方	給食の時間
		トイレの使い方	生活
		避難訓練	特別活動
自立心	・給食当番の仕事を、最後までやり遂げようとする。 ・朝の会の司会や授業の号令をかけることで、当番の責任をもたせる。2人1組で行うことで、抵抗感を少なくする。	当番活動	給食の時間
		日番活動	特別活動
協同性	・小学校内の先生の名前集めを班で行うことで、全員で達成できた時の喜びを味わう。 ・みんなで遊ぶためのルールを共有し、全員で楽しく遊ぶ。 ・同じ掃除道具のグループで協力をして、掃いたり、拭いたりして教室をきれいにする。	先生と仲よし大作戦	生活
		みんな遊び掃除	特別活動 掃除の時間
規範意識・道徳性の芽生え	・学校の中の、トイレや廊下などで起こりうる問題をかいた絵を通して、みんなが気持ちよく生活するうえで大切なことについて考えさせ、きまりや約束を守ろうとする心情を育てる。 ・楽器の持ち方や打ち方の基本的な演奏の仕方を知るとともに、楽器を大切に扱う姿勢や、話を聞く時は楽器を鳴らさないなどの約束事を身に付ける。 ・休み時間の様子をかいた絵を通して、学校という公共の場所での行動について考えさせ、よいことと悪いことを判断し、よいと思うことを進んで行おうとする心情を育てる。	どうしてこうなるのかな	道徳
		リズムを打ちましよう	音楽
		いいことしているのはだれかな	道徳
社会生活との関わり	・自分たちの給食がどのようにして出来上がっているのかを見学し、給食センターの方のお話を聞くことで、自分たちの生活が大勢の方に支えられていることを知る。 ・遊具安全博士に変身し、幼稚園の遊具の安全な使い方を幼稚園の子に伝えるという目的意識をもって、遊具の安全な使い方を考える。 ・2年生が計画を立てた学校探検に出かけ、学校施設の様子が分かり、安心して学校生活に臨むことができるようになる。また、2年生と一緒に校内を回ることによって交流を図る。	給食センターの見学にいこう	生活
		幼稚園児に遊具の安全な使い方を紹介しよう	特別活動
		学校探検に行こう	生活
思考力の芽生え	・丁寧な言葉遣いと普通の言葉との違いに気を付けて、絵の場面や生活の中での場面に応じたあいさつの言葉を考えて言う。 ・雨が大好きな生き物と雨が嫌いな生き物で文字の音が違うことに気が付くことができる。	はきははあいさつ	国語
		あめですよ	国語

幼児期		幼児期の 終わりまでに 育ってほしい姿
遊びや活動内容	学びの姿（具体的な姿）	
苗植え・芋掘り 野菜や植物の栽培 生き物の飼育 自然物を使用した製作 お花などでのジュースづくり 散歩 誕生日会	・季節によって育つものが違うことに気付く。 ・種があることや種から芽が出ることを知り、命が続いていることを感じる。 ・世話をする喜びを感じる。 ・収穫したものを食べる喜びを味わう。 ・飼育することを通して命あるものを大切にしようとする。 ・落ち葉や木の実などを使って製作し、不思議さやおもしろさを感じる。 ・自然物からいろいろな遊びができることに気付く。 ・咲いている花や生き物から季節の移り変わりを感じる。 ・お家の方からのお手紙や、友達からのお祝いの言葉などで、自分が大切にされていることに気付く。 ・大きくなったことにうれしい気持ちをもったり、家族や友達の存在をうれしいと感じたりする。	自然 ・生との 命の関 重わり
当番活動 出席シール貼り かるた しりとり 劇場ごっこ すごろく お手紙ごっこ 積み木 芋掘り 木の実集め 生き物を捕まえる（飼育する）	・欠席人数調べで人数を数える。 ・カレンダーを見て、シールを貼り、カレンダーの日の数字に気付く。 ・一週間やヶ月などの単位、昨日や明日などのきまりに気付く。 ・文字を読む、文字を探して取る。 ・取った枚数を数える。 ・つながることばを考える。 ・チケットをつくる。 ・受付場所やプログラムなどが分かるように紙に書いて表示する。 ・サイコロの目の数を数えて進む。 ・遊びに最適な人数を集める。 ・文字を使って手紙を書く。手紙を数える。 ・いろいろな形の積み木を使って、組み合わせて遊ぶ。 ・大きさを比べたり、数を数えたりする。 ・重さや形の違いなどを知る。 ・生き物の特徴に気付く。（体の形・足の数等）	標識 や文 字数 など や図 の形、 の関 心・感 覚
あいさつ 遊びの話し合い オペレッタ 劇遊び 交流後の感想を言う ごっこ遊び 製作 飼育や栽培 ドッジボールなどルールのある遊び 絵本の読み聞かせ	・言葉を交わし合う心地よさを感じる。 ・自分の思いを言葉にしたり、相手の思いを聞いたりする。 ・疑問に思ったことを尋ねたり、知っていることを伝えたりする。 ・どうしたらいいオペレッタ（劇）になるか、考えを出し合ったり、相談し合ったりする。 ・小学生との交流の後、自分の思ったことや感じたことを伝え合う。 ・衣装をつくったり、ごっこ遊びに使う物をつくったりする時に友達と相談し合いながらつくる。 ・友達が工夫しているところを言葉にして認めたり、教えてもらったりしながらつくる。 ・気付いたことや感じたことなどを、言葉にして伝える。 ・チーム分けの方法を考えたり、作戦を考えたりしたことをみんなで話し合いながら遊びを進める。 ・絵本の中のリズムのいい言葉で遊び、リズムのおもしろさを感じる。	言葉 による 伝え 合い
楽器遊び オペレッタ 劇遊び ダンス 描画 製作 歌 身近な自然を感じる	・いろいろな楽器を使って、音楽に合わせて、鳴らす。 ・お話のイメージに合わせて動いたり、踊ったりする。 ・自分なりにお話を再現したり、動きをつけてみたりする。 ・いろいろな素材を使ったり、身に付けたりして遊びに使う。 ・いろいろな曲に合わせて、衣装を工夫したり、手に飾りを持ったりして踊る。 ・自分なりに伸び伸びとかく。 ・好きな素材を選び、イメージを膨らませてつくる。 ・リズムを感じたり、イメージを膨らませながら歌ったりする。 ・空や風の様子、暖かいお日さま等に心を動かす。	豊 かな 感性 と表 現

幼児期の 終わりまでに 育てほしい姿	児童期		
	学びの姿（具体的な姿）	学習活動	教科等
自然と 生命の関わり ・自然の尊重	・2年生からプレゼントしてもらったアサガオの種を蒔き、一人一鉢育てることで、植物を大切にしようとする気持ちを育てる。	さかせてみたいはないっばい	生活
	・身近な自然を観察したり、遊んだりしたことを表現する。	くさはなであそぼう	生活
	・誕生日の子へプレゼントのカードを書いたり、誕生日の子がしたい遊びを考えたりして、自分や友達が生まれてきたことを喜ぶ。	誕生日会を開こう	特別活動
標識や文字などへの関心・感覚 ・数量や図形	・具体物と半具体物を対応させながら、1～10までの数概念を養い、10までの数が表せるようにする。 ・音節と文字との対応に気付かせながら、絵と言葉をつないで意味を捉え、語のまとまりに気を付けて音読したり、語のまとまりを意識して書いたりする能力を身に付ける。 ・言葉のリズムを楽しみながら詩を音読し、五十音図について理解する。 ・空き箱や空き缶などによる立体の組み立てなどを通して、ものの形を認めたり、形の特徴を捉えたりすることができる。立体の面に着目し、写し取り、その形を利用して、絵かき遊びができる。 ・空き箱や空き缶を組み立てて、自分の考えた立体物をつくることができる。 ・たし算が用いられる場面を知り、たし算の記号や式の読み方、書き方を理解する。 ・（1位数）＋（1位数）＝（10以下の数）のたし算ができる。 ・主語と述語の関係に注意して、つながりのある文を書く。	かずとすうじ あいうえおのうた あひるのあくび いろいろなかたち はこのかたち たしざん（1） ぶんをつくろう	算数 国語 国語 算数 図工 算数 国語
言葉による伝え合い	・はきはきとした声で自分からあいさつをすることで、言葉进行を交わし合う気持ちよさを感じる。 ・自己紹介をしながら、友達の名前を集める活動を通して、友達に自分のことを伝えることができる。 ・絵をもとに、みんなに向けて話したいことを見付け、みんなに聞こえるように話したり、友達の話に興味をもって聞いたりする。 ・遊びの中で友達と意見の相違があれば、自分の気持ちを話したり、友達の気持ちを聞いたりして、互いの気持ちの理解ができるようにする。 ・朝の会で、日番がスピーチをして、自分の感じたことを伝える。聞いている方は、最後まで静かに聞き、質問を考える。	名前を集めよう みんなのせかい ともだちの気持ちを 知ろう スピーチをしよう はこのかたち	常時 生活 国語 休み時間 朝の会 図工
豊かな感性と表現	・クレパスを使いながら、自分のお日さまを好きな形や色で表し方を工夫してかくことを楽しむ。 ・声をそろえて歌ったり、音楽に合わせて遊んだりする活動を通して、友達と一緒に表現する楽しさを感じ取る。	おひさまにこにこ うたでなかよしになろう（童謡） チョキチョキかざり 「ど」と「そ」の いちをおぼえま しょう	音楽 図工 音楽

資料 2

○ 実践協力園が作成したアプローチカリキュラム

三木市立三樹幼稚園

姫路市立広畑第二幼稚園

朝来市立中川こども園

篠山市立古市幼稚園

		アプローチ期		
		5 歳児 9 月～1 0 月	5 歳児 1 1 月～1 2 月	5 歳児 1 月～3 月
ア プ ロ ー チ 期 に 身 に 付 け たい 資 質 ・ 能 力	健康な心と体	・手洗い、うがい、水分補給、汗の調節などを自分で気付いて行うようになる。(A) ・ふれあい運動会などでは体を十分に動かし、自分たちの力を十分に出して遊ぶ。(BC) ・給食の準備を進んでし、ルールやマナーに気付き、友達と食べようとする。(AC)	・お祭りごっこや様々な運動遊びを通して、体を十分に動かして遊びながら、自分の挑 戦したい遊び（縄跳び、竹馬、一輪車など）に根気よく取り組もうとする。(C) ・収穫したサツマイモなどで友達とクッキングをし、秋の実りに感謝する。(C)	・寒さに負けず、鬼ごっこ、ドッジボール、サッカーなどの遊びを、友達と体を十分 に動かして遊び、衣服の調節、マスクの着用、うがい手洗いなどを進んで行う。(A) ・生活全体の流れが分かり、自分たちで給食準備、片付けを進んで行おうとする。(AB)
	自立心	・自分の決めた遊びや目標に対して、すぐに諦めずに何度も挑戦して取り組む。(BC) ・友達と一緒に運動会の種目を決める中で、友達の意見も聞いてみようとする。(BC)	・お祭りごっこや友達との遊びの中で、自分の役割や今、してよいことに進んで気付き、 友達と声をかけ合い、力を合わせながら遊ぶ中で自分のよさに気付く。(AC)	・様々な葛藤がありながらも、友達と目標に向かって取り組むことの素晴らしさを感じ 、その中で頑張る自分に自信をもつ。(C)
	協同性	・運動会遊びなどでは、プログラムや競技の内容、司会進行などを自分たちで話し合い、 自分たちでやり遂げようとする。(BC) ・運動会遊びを進める中で、チーム意識が芽生え、力を合わせて取り組もうとする。(B)	・友達と考えを出し合い、思いを伝え合いながら、お祭りごっこなどに取り組む。(BC) ・音楽会などでは、友達と一緒に気持ちよく歌ったり演奏したりするために、みんなで 考え合いながら取り組めるようになる。(AC)	・友達と一緒にしたい遊びを考え、いろいろな遊びを経験し、自分たちで遊びを進め る楽しさを味わう。(C) ・友達と一緒に共通の目的をもって、お話をつくっていく喜びを十分に味わう。(BC)
	道徳性・規範意識 の芽生え	・遊びの中で必要なルールに気付き、自分たちでルールをつくって遊ぼうとする。(AB) ・頑張っている小学生の姿を見て、真似てみようとする。(B)	・必要に応じて遊びのルールを決め、また柔軟に話し合いでルールを変えて遊ぶ。(BC) ・公共施設の使い方、音楽会での鑑賞態度の大切さに気付く。(A)	・自分のことだけでなく、友達が悔しい思いをしたり、諦めずに頑張ったりしている 思いを感じながら、応援したり、一緒に頑張ろうとしたりする。(C)
	社会生活との 関わり	・運動会で小学生に憧れ真似したり、未就園児に優しくしたりし経験の幅が広がる。(AB) ・秋祭りなどの地域の方との触れ合いの中で、地域のよさを感じ、地域の中の子どもと して大切にしてもらえる喜びを感じる。(BC)	・地域の大宮八幡宮まで歩き、8 5 段の階段を宮入、宮出し、地域の方に屋台を担ぐ姿 を応援していただいたりして触れ合い、親しみをもつ。(C) ・デイサービスを訪問し高齢者の方が喜んでくださる経験をし役立つ喜びを感じる。(C)	・修了を前に振り返りの活動の中で、大勢の方のおかげで自分が大きくなっているこ とに気付き、感謝の気持ちをもつようになり、1 年生に向けての期待感も大きくな る。(AC)
	思考力の芽生え	・遊びの中で困った時、友達と話し合い、何度も試しながら解決しようとする。(C) ・運動会などでお客様が来られる時には、お客様に分かるように競技内容の説明や競技 場所はこれでよいのかなど、自分たちだけでなく人の立場に立って考え始める。(ABC)	・友達と屋台づくりなどの目標に向かって、話し合い、みんなで役割を決めてつくるこ との大切さに気付き、取り組もうとする。(BC) ・木の葉の色付き、変化に気付き、不思議に思って身近な本などで調べたりする。(AC)	・霜、氷、つらら、霜柱などの冬の自然事象に気付き、関心をもちながら遊びに取り 入れる。温度や風、影、地質などによって変化があることに気付くようになり、意 欲的に調べたり、試したりする。(ABC)
	自然との関わり・ 生命尊重	・幼稚園で咲いた“はるかひまわり”の種を大切にし、命があることに気付く。(AC) ・秋の空の美しさ、青い空、秋の雲などに関心をもつ。(C) ・バッタ、虫の泣き声など、身近な自然と親しみながら、イメージを広げて遊ぶ。(AC)	・お祭りが行なわれる時期の匂いなど（キンモクセイなど）を感じる。(AC) ・木の葉の色付きや、落ち葉などを見たり触ったりしながら、身近な虫が少しずつ姿を 見せなくなったことに気付き、季節の移ろいを感じる。(AC)	・飼育しているウサギの冬毛や落葉、モクレンのつぼみ、モモの花の開花など、寒い 冬から春へ近付こうとしていることを喜ぶようになる。(C) ・お話を通して、自然の生活や命の大切さに気付き、大切にしようとする。(C)
	数量や図形、標識 や文字などへの 関心・感覚	・運動会の遊びやわくわくタイムで、勝ち負けや得点に気付き、様々な場面で自分たち なりに、数えたり比べたりするようになる。(AB) ・万国旗を飾り、いろいろな国や旗の模様などに興味、関心をもつ。(C) ・時間について関心をもち、時計やタイマーを使って競技時間を決めたりする。(AB)	・それぞれの地区の屋台の形や色、屋根や装飾品（えび、しゃちほこなど）、ハッピー 背中 of 文字に興味をもち、自分たちも製作したり、ハッピーに文字を書いたりする。(BC) ・製作活動とともに自分のつくったものに名前を書いたり、書いて欲しがったりするこ とが増えてくる。(A)	・かるたやトランプ遊びの中で、自分なりに数えたり比べたりすることを喜んで行な うようになり、繰り返し遊びながら数、文字についての関心が高まる。(BC) ・給食活動で4～5 の牛乳の数のまとまりが一目でわかるようになっている。(AB) ・自分の名前や友達の名前などの身近な文字に関心が高まり、遊びに取り入れる。(AC)
	言葉による 伝え合い	・様々な場面で自分の思ったことや考えたことを伝えようとする。(B) ・困っている友達の話や気持ちを聞こうとする。(AC)	・自分の知っていることを伝えたり、アイデアを出し合ったりしながら、教師の支えを 必要としながら、友達と一緒に遊びを進めていこうとする。(C)	・自分の考えを、友達に伝えたり、友達の話をしっかり聞いたりする。(BC) ・物語に親しみ、感じたことや想像したことを友達と言葉で伝え合おうとする。(B)
	豊かな感性と 表現	・様々な遊びの中で、自分の感じたこと、イメージしたことを素直に表現する。(B) ・運動会遊びでの組体操などでは、自分たちで技を考えて、お話の世界にイメージを広 げながら、友達と一緒に表現する楽しさを味わう。(BC) ・運動会プログラムの絵をかき、伸び伸びと表現しようとする。(AB)	・はたきを持ったり、祇園囃子を歌ったり、屋台を担ぐかけ声をかけたり、言葉やリズ ムのおもしろさや心地よさを感じたり、龍の絵やえびやしゃちほこの装飾などを友達 と一緒に考えたりしながら、表現する。(ABC) ・友達とお祭りのイメージを共有しながら、自信をもって表現しようとする。(C)	・お話を聞いて一人一人が感じたり、考えたりしたことを、自分なりの方法で表現し、 お話の世界にイメージを広げ、自然の世界を存分に感じながら、体や製作物などを 使って表現する楽しさを味わう。(BC)
幼 児 の 活 動		●わくわく遊び（登園後の戸外遊び）【増え鬼・バナナ鬼・フープ鬼・むっくりくまん・だるまさんがころんだ・おおかみさん今何時・泥警・花いちもんめ・サッカー・爆弾ボール・ドッジボール・砂場遊び・固定遊具遊び など】 ●自然との触れ合い【秋の自然（木の実・落ち葉など）】【色水遊び】【ヒマワリの種とり】【芋掘り】【チューリップの球根植え・ほうき草の刈り取り】【一鉢栽培・パンジー】 【ミカン・ザクロ・カキ・ヒメリンゴの収穫】【ダイコンの収穫】【冬の自然（氷・霜柱・つらら・雪など）】【玉ねぎ植え】【えんどう豆種まき】【ジャガイモ植え】【イチゴ植え】 ●お祭りごっこ【大宮八幡宮 岩壺神社など地域の祭り開催】【屋台、ハッピー製作】【製作した屋台を担いで大宮八幡宮へ】【お店屋さんごっこ】 ●運動会遊び【リレー・ダンス・玉入れ・チャレンジ遊び（こっぼり・竹馬・鉄棒・雲梯・一輪車・縄跳び・跳び箱）など】 ●クッキング【二十日大根・サツマイモなど収穫したものを使って】 ●幼小連携【給食後の交流遊び】【5 年生と運動会合同競技練習】 【幼小合同運動会】 【幼小合同音楽会】 【給食交流】 【マラソン大会】 【1 年生と交流（一緒に遊ぶ・劇を観てもらう）】 【体験入学】 ●設定保育【リズム遊び（前蹴り足・後ろ蹴り足・スキップ など） 歌を歌う 身振り表現遊び 絵画製作活動】 【お正月遊び（かるた・コマ・羽子板・凧揚げなど）】【劇遊び】 ●その他行事【誕生会】【そうめん流し】【秋季遠足（神戸方面）】【敬老の日はがき投函】【お月見会】 【ハロウィン遊び】【第 2 学期生活発表会】【餅つき会】 【かるた大会】【節分遊び】【第 3 学期生活発表会】【コマ回し大会】 【修了式】 【公民館文化祭作品出展】【三木幼との交流】【トライやる・ウィーク】【幼稚園ウィーク】【ディサービス交流】【避難訓練（毎月）】【就園前児の集い】【祖父母参観ひな祭り会】		
☆ 環 境 の 構 成 の ポ イ ン ト ○ 教 師 の 援 助		○友達と一緒に体を動かして遊ぶ喜びや力を合わせる喜びを味わえるようにする。 ○小学生と一緒に幼小合同運動会に向けて活動する中で、憧れをもったり、一緒に活動 できるうれしさを感じたりしながら、交流できるようにする。 ○友達と考えを出し合いながら、いろいろな遊びを考え、試したり、挑戦したりしなが ら、自分たちの運動会へ向けて意欲を高めていけるようにする。 ☆自分たちで遊びを工夫したり、いろいろな遊びを考え出したりできるように、いろい ろな用具を準備し、使いやすい場所に置いておく。	○晩秋から冬への移り変わりを感じられるように、身近な自然物を遊びに取り入れ、見 たり、触れたりして遊べる機会をつくる。 ○地域の行事に触れることで、友達との遊びに生かしていけるようにする。 ○友達と思いを伝え合い、自分たちで問題を解決しようとする姿を見守りつつ、必要に 応じて教師が仲介する。 ☆共通のイメージや個々の思いが十分に発揮できるように様々な環境を構成し、互いの 気持ちや考えを伝え合える機会を丁寧に取り上げる。	○個々の力を十分に発揮し互いのよさに気付きながら充実感を味わえるようにする。 ○修了準備を進める中で、お世話になった人に感謝の気持ちがあもてるようにする。 ○クラスみんなで劇遊びをやり遂げたことを十分に認め、就学に向けて、一人一人が 自信をもち主体的に行動できるようにする。 ☆お正月遊びや伝承遊びが十分に遊べる場所を確保したり、文字や数量に興味・関心 があもてるような環境を構成したりする。

		アプローチ期		
		5歳児 9月～10月	5歳児 11月～12月	5歳児 1月～3月
アプローチ期に身に付けたい資質・能力	健康な心と体	・いろいろな運動に興味をもち、進んで行う。(A) ・友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、ルールを守って一緒に遊ぶ充実感を味わう。(BC)	・手洗いやうがいなど健康な体づくりに興味をもち、進んで行う。(A) ・寒暖を感じて運動や戸外遊びを意欲的に行う。(AB)	・風邪やインフルエンザ予防のため、手洗いやうがいを進んで行う。(A) ・戸外で十分に体を動かしているいろいろな運動遊びに取り組む。(C)
	自立心	・自分なりの目的に向かって力を出し、遊びや生活を進める楽しさを知る。(ABC)	・自分の役割を認識し、責任をもって取り組む。(B)	・園生活を通して、場面に応じた行動を自分なりに考えてする。(B) ・自分で決めた課題に向かって諦めず、挑戦しようとする。(C)
	協同性	・友達と役割を分担したり、力を合わせたりして遊びや生活を進める。(B) ・運動会では、クラスやチームでの競技を取り入れ、力を合わせて取り組むようになる。(B)	・友達と協力して一つの目的に向かって遊びを進める。(B) ・遊びに必要なものを友達と相談しながらつくっていく。(B)	・友達と共通の目的に向かって役割を分担したり、ルールを決めたりして主体的に遊びを進める。(BC)
	道徳性・規範意識の芽生え	・安全な使い方を理解して遊具や用具を使う。(AB) ・友達同士の仲間意識ができたり、ルールをつくったりして遊びを進めていこうとする。(B)	・自分たちで遊びの場を整え、物を大切にしてい丁寧に扱う。(BC) ・自分の思いを話したり、相手の考えを受け入れたりし、折り合いを付けて遊ぶようになる。(BC)	・友達や異年齢児との交流を深め、思いやりの気持ちをもつ。(C) ・トラブルや困ったことがあると自分たちで解決していこうとする。(BC)
	社会生活との関わり	・バス遠足でいろいろな仕事に気付いたり人に親しみをもったりする。(A) ・地域の敬老まつりに参加したり高齢者施設を訪問したりして、高齢者や身近な人々に親しみをもつ。(C)	・小学生との交流を通して就学への期待をもち始める。(A) ・自分の生活に関心の深い情報や地域の人に関心をもち、心を通わせる。(C)	・生活を共にしてきた友達、異年齢児や身近な人々と大きくなった喜びを感じ、感謝の気持ちをもつ。(C) ・友達と認め合い、自分の力を発揮して遊びを進める。(B)
	思考力の芽生え	・興味のあるものについて調べたり考えたりする。(B) ・遊びに必要なものを適切な材料を考えて使い、工夫したり飾ったりする。(B)	・自然物を使って様々な遊びを楽しみ、素材の感触や性質などに気付いたり調べたりする。(B)	・冬の事象に関心をもち、予想したり確かめたり試行錯誤したりしながら友達と共通のテーマのもとに遊びを進める。(AB)
	自然との関わり・生命尊重	・虫捕りをしたり、草花の観察をしたりする。(A) ・木の実や木の葉を集めて遊ぶ。(AC) ・サツマイモの収穫を喜ぶ。(AC)	・身近な自然の美しさを感じたり、季節の移り変わりに関心をもったりする。(A) ・自然物を種類ごとに分けたり、遊びに取り入れたりする。(B)	・身近な事象に関心をもち、物の性質や変化、仕組みに気付いたり、考えたりしながら遊ぶ。(AB) ・動植物の命に気付き、大切にする気持ちをもつ。(AC)
	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	・遊びや生活の中で数量・図形・位置・時間に関心をもつ。(B) ・収穫したサツマイモの数を数えたり、大きさを比べたりする。(AB)	・遊びや生活の中で、数えたり競ったり見通しをもったりする。(B) ・数えたり比べたり、様々な形を組み合わせたりして数量や図形に関心を深める。(AB)	・簡単な文字や標識、記号に関心をもち、遊びに取り入れる。(B) ・遊びや生活の中で必要な文字に興味をもち、読んだり書いたりする。(AB)
	言葉による伝え合い	・思ったり、感じたりしたことを相手に伝わるように言葉で表現する。(B) ・相手の気持ちに気付き受け止め、言葉を通して心を通わせるようになる。(BC)	・遊びの中で、考えたことを実現するように言葉で表現し合う。(B) ・友達と思いを伝え合い、相手の話を理解しようとする。(BC)	・感じたことや考えたことを相手に分かるように話したり、相手の話を聞いて受け入れたりして言葉による伝え合いを楽しむ。(ABC)
	豊かな感性と表現	・リズムに合わせてたり、友達と動きを考えたりして表現する。(B) ・様々な絵本に親しみイメージを広げる。(A)	・音色の美しさを感じながら歌ったり、演奏したりする。(AB) ・絵本や物語、経験したことからイメージを豊かに膨らませ、動きや言葉で表現する。(AB)	・イメージしたものを友達と相談し、様々な表現を楽しむ。(BC) ・物語の世界を想像し、登場人物になって表現したり遊びに必要なものをつくったりする。(B)
幼児の活動		○ なかよしスポーツデー（リレー・ダンス・玉入れ・綱引き・競技など） ○ 祖父母参観 ○ 高齢者施設訪問 ○ バス遠足 ○ お話会 ○ 体操教室（マット・鉄棒・跳び箱） ○ 運動遊び（鬼ごっこ・ドッジボール・竹馬・縄跳びなど） ○ チャレンジタイム（マラソン・鉄棒・雲梯・登り棒） ○ 自然物の採集や自然物を使った遊び（木の葉・木の実・木の枝など）		
○ ☆ 環境の構成のポイント		○ 幼児の興味や関心に合わせて十分に活動できる時間や場を確保する。 ○ 園外に行き、秋の自然に触れたり、自然物を遊びに取り入れたりする機会をもつ。 ☆ 一人一人の気持ちに寄り添い、場面や機会を捉えて幼児の思いや考えを周囲の幼児に伝えたり、クラスで考えたりする。 ☆ やってみたい、できるようになりたいという活動意欲の高まりと共に生じる競争心や達成感を認めたりしながら自信がもてるようにする。	○ 一人一人の多様な取組方を受け止め、知的好奇心や探究心をもって関われるよう様々な素材や用具を用意する。 ○ 友達と相談したり協力したりできるような十分な時間と場を保障し、見通しをもった生活ができるようにする。 ☆ 互いのよさに気付き、認め合えるよう援助していく。 ☆ トラブルが起こった時、自分たちで解決していけるよう、一緒に考えたり、幼児同士がじっくり話し合える場や機会を設けたりする。	○ 自然と触れ合う機会を大切にし、発見したり試行錯誤したりする楽しさを十分に味わえるような環境を工夫する。 ○ クラス全体で協力しながら取り組めるような活動を取り上げ、協同する充実感や達成感を味わわせる。 ☆ 互いのよさを認め、それぞれの成長を喜び合いながら生活する。 ☆ 園生活において培われた力や自信、誇りをもって就学を迎えられるようにする。

幼児の実態からの 保育の特色		★「転んでも怪我をしにくい身体」「腰骨を立てた姿勢」を目指して運動遊びの機会を増やしている。★地域に関心をもち、地域を好きになる子を育むために、園外保育で訪れた体験を2学期のごっこ遊びに取り入れて遊んでいる（「中川っ子の地域で遊ぼう」）。★生活習慣の確立ができていない幼児や規範意識が乏しい幼児が多くトラブルが頻繁なので、きまりを守る意識の定着を図っている。★見通しが立ちにくい幼児が多く、タイムタイマーを利用したり事前の手立てをしたり、見通しを立てる支援をしている。★左右等の対比や文字・数字に興味や関心をもちつような遊びの環境を整えている。		
アプローチ期		5歳児 9月～12月	5歳児 1月～3月	保育のユニバーサルデザイン
ア プ ロ ー チ 期 に 身 に 付 け たい 資 質 ・ 能 力	健康な心と体	・「怪我をしにくい身体」「腰骨を立てた姿勢」を目指し、様々な身体を動かす運動遊びを、楽しむ。(A) ・竹馬、縄跳び、フープ、跳び箱、鉄棒、リレー等の運動遊びを自分で目標を立てて頑張る。(AC) ・自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な手洗いやうがいを丁寧に行う。(AC) ・「おはしも」等の避難時の約束や方法が分かり、保育教諭の指示を聞いて行動する。(AC)	・運動遊びの継続により怪我をしにくい身体や腰骨を立てた姿勢になりつつあることを実感する。(AC) ・ダイコン、ニンジン等冬野菜の生長に関心をもち、食べ物に感謝の気持ちをもつようになる。(AC) ・身の回りを清潔にし、衣服着脱、食事、排泄等の正しい方法を身に付け、自分で判断して行う。(AB) ・危険な場所、害虫、遊び方や災害時の避難の仕方が分かり、安全に行動する。(AC)	●子ども目線の環境設定 ・机椅子に名前を貼る（安心感・左右認識・文字への興味） ・動線を意識した部屋づくり（流れを分かりやすく） ・興味関心がある物に対しての教材準備（虫が好きなので生き物の図鑑を部屋に置く） ・保育室のゾーン化（コーナーづくり） ●見通しがもてる支援 ・一日の流れの視覚化（絵文字カード・矢印・手作り時計） ・生活の流れの視覚化（例 片付け→トイレ→手洗い→うがい→座る） ・活動や遊びの終わりの時間の視覚化（タイムタイマー・時計） ・活動の視覚化 ＊発表の仕方の視覚化（発表する・分かりません・考えています等） ＊友達とのコミュニケーションの視覚化（よい行動・悪い行動につながる結果を絵カードとボードで説明） ・歯磨き時間の見通し（砂時計） ●刺激への配慮 ・集中しやすい環境設定（不要な箇所を目隠し） ・場所の配慮 ＊個人棚の配置（担任が確認しやすく、生活の動線を配慮した位置） ＊製作時の机の配置（説明が分かりやすい位置） ・声の大きさの視覚化 ●分かりやすい伝え方 ・必要な準備物の視覚化 ・話や活動は短く、具体的に ・製作の手順書（折り紙で利用） ・写真や映像を利用（見通しと振り返りを画像で確認） ・記憶の定着の為に繰り返しの説明 ●ルールの提示 ・個人棚の片付け方の視覚化 ・食器の置き方の視覚化 ・運動や遊びのルールを絵で分かりやすく説明
	自立心	・運動遊びで自分なりに目標を立てて、できなくても諦めずに繰り返し挑戦しようとする。(C) ・竹田城跡登山で、友達と励まし合いながら最後まで登り切り、達成感を味わう。(C) ・製作活動や給食の後に協力して掃除し、最後まできれいにしようとする。(C)	・基本的生活習慣や整理整頓、身繕い等を身に付け、身の回りのことをきちんとしようとする。(AC) ・こども園最年長であることの自覚をもち、園の行事で役割を担ったり手伝いをしたりする。(C) ・当番活動や友達との遊びの中で自分の役割を自覚し、責任をもって果たそうとする。(BC)	
	協同性	・運動会のパラバルーン演技で、膨らんだりきれいに広がったりするようにみんなの力とタイミングを合わせ、達成感を味わう。(BC) ・「中川っ子の地域で遊ぼう」の活動の中で遊びの目的を共有し、目的が達成できるように役割分担したり協力したりしながら、友達と一緒に遊びをつくり上げる楽しさや充実感を味わう。(BC)	・小学校の運動場で友達と協力して大きな雪だるまをつくったり、力を合わせてこども園まで運んだりする経験を通して、協力する喜びや達成感を味わう。(BC) ・発表会に向かう活動の中で、友達同士で考えを伝え合ったり協力したりして、出来上がっていく喜びを味わう。(BC)	
	道徳性・規範意識の芽生え	・友達と遊ぶ中で順番や時間等遊びのきまりの大切さに気付き、守ろうとする。(C) ・友達のトラブルの仲立ちをし、トラブルの原因や仲直りの方法を探り解決していこうとする。(BC) ・異年齢児と共に活動することによって関わりを深め、優しく声をかけたり、世話をしたり、思いやりの気持ちをもったりするようになる。(C)	・共同の遊具や用具の正しい使い方や片付けの方法が分かり、それを守ることが次に使いやすくなることや、長く使えることにつながることを理解し、大事に扱うようになる。(ABC) ・遊びや生活の中で自分の考えや行動がいつも正しいわけではなく、してよいことや悪いことがあることが分かり、友達や保育者の考えを受け入れたり、折り合いを付けたり、攻撃的な言動を抑制できるようになる。(C)	
	社会生活との関わり	・地域の高齢者と触れ合い、親しみを感じたり昔からの生活や遊びの知恵を学んだりする。(AC) ・秋の遠足で公共の場でのマナーや約束事を知り、それを意識して行動する。(AC) ・「中川っ子の地域で遊ぼう」の活動を通して、地域に親しみや愛着を感じるようになる。(AC)	・小学校との交流等を通し、小学校に関心をもち、入学に喜びと期待を感じるようになる。(C) ・早春の地域に出かけ、景色の素晴らしさに気付いたり、親しみを感じたりする。(AC) ・卒園式に掲げられた国旗や市旗に接し、親しみをもつ。(AC)	
	思考力の芽生え	・運動や遊びがどうすれば上手くいくか、友達の様子を見たり真似をしたりして、気付いたり、工夫したりする。(AB) ・これまでの体験活動を、ごっこ遊びにどう取り入れるか、友達と試行錯誤しながら設計図にかいて考えを整理したり、工夫したりしながらつくっていく。(BC)	・園庭の水や霜柱に興味や関心をもち、性質等を絵本で調べて知り、友達と確かめようとする。(ABC) ・雪だるまづくりで大きさや重さが変化していくことを感じたり、日向、日陰で溶け方が違うことに気付いたりする。(AB) ・コマ回し等の伝承遊びに興味や関心をもち、できるようになろうと友達の様子を見たり、考えたり、工夫しながら練習したりし、習得したら出来ない子に分かりやすく伝えようとする。(ABC)	
	自然との関わり・生命尊重	・サツマイモの収穫を喜び、収穫後は、つるの性質を利用しリースをつくって楽しむ。(BC) ・動植物の世話を責任をもって行い、親しみを感じたり命あるものを大切にしようとしたりする。(C) ・木の実や落ち葉拾いを楽しみ、遊びに活用しようとする。(B)	・雪や氷、霜柱等冬ならではの自然現象を遊びの中に取り入れて楽しんだり、溶けていく変化に興味や関心をもったりする。(BC) ・自分の誕生日を知り、友達や保育教諭から祝ってもらうことにより自分が大切にされていることに気付く。(AC)	
	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	・収穫したサツマイモの数を数えたり、大きさや重さを比べたりしながら、多い、少ない、大きい、小さい、重い、軽い等の言葉の意味を実感する。(AB) ・駅の時刻表や案内図、道路標識などを見て、簡単な標識や時計、文字などに興味をもつ。(AC) ・ごっこ遊びの中でお金や看板をつくったり数えたりして遊び、数や文字に興味をもつ。(ABC)	・トランプやすごろく、かるた取り等の正月遊びを繰り返し楽しむうちに数字や文字への興味を深めていく。(ABC) ・コマ回しやけん玉をする順番や勝敗を記録することで数や文字に興味をもち、さらに表にする分かりやすさを知る。(ABC) ・構成玩具や積み木で遊ぶ中で、対称の形に気付いたり、立体図形にも興味や関心をもったりする (ABC)。 ・年賀状ごっこ遊びで、簡単な文字を見ながら書こうとしたり宛名を読んで配達したりする。(ABC)	
言葉による伝え合い	・活動の中で、自分が思ったことややりたいことを友達に分かるように伝えたり、相手の話を注意して聞いて理解したりする。(ABC) ・絵本や物語に親しみ興味をもって聞き、物語や言葉の意味を感じ取り言葉が豊かになる。(AC) ・ごっこ遊びの中で必要な言葉を知り、やりとりを楽しむ。(AC)	・「みんなで話そうの会」等、クラスみんなで話す場で友達や保育教諭とやりとりしながら、自分の思いをみんなの前で伝えられるようになる。(AC) ・卒園式の呼びかけを通して、一年間の思い出や感謝の気持ちを、自信をもって伝えられるようになる。(AC)		
豊かな感性と表現	・友達と一緒に音楽に合わせてダンスや体操をしたり、隊形移動したりすることを楽しむ。(AC) ・ごっこ遊びや共同製作等、友達とイメージを膨らませ、身近な素材や用具を使って工夫して表現する。(BC)	・物語をもとに友達とイメージを共有しながら劇遊びにつくり替え、自分の役になりきり表現し、達成感を味わう。(ABC) ・きれいな声の出し方に気を付けて、発表会や卒園式で心を込めて歌おうとする。(BC)		
幼児の活動				
◎環境の整備 ◎教師の援助 ◎ポイントの構成 ◎の	○毎日のチャレンジタイムは、主体的に継続して行えるようにジャンケンや競争遊び等楽しめる内容を取り入れる。 ○運動会では、4月からのチャレンジ活動を運動会向けにアレンジして、主体的に頑張る姿を見てもらえるように構成する。 ○園外に出る時は下調べを十分に行い、安全確認や見どころのポイントを把握しておく。 ○園外に出た時は、文字や数、標識等に注意が向くような言葉をかけ、興味や関心をもちつようにする。 ◎挑戦したり、試行錯誤したりする姿を認めたり、共感したりして自信がもてるようにする。 ◎芋掘りや木の実拾いでは、感動した喜びの声に共感しながら、大きさや数にも関心をもちつような言葉をかける。 ◎子どもたちの考えに共感したり、考えを引き出したり、保育教諭も一員として関わるようにする。		○真剣に取り組んでいる姿や役割を意識して自分なりに頑張っている姿をP C等を利用して客観的に振り返る場を作り、自信や責任をもって頑張れるようにする。 ○タイミングを逃さず冬の自然事象の体験ができるように、用具類や絵本、図鑑等を準備しておく。 ○卒園まで見通しをもって活動したり、入学への期待を膨らませたりするように、卒園までの日数や予定等が分かるようにカレンダーを用意する。 ◎毎日運動を続けることにより、段々としつかりした身体になってきていることを具体的に伝え、さらに意欲がもてるようにする。 ◎幼児の気付きや発見、協力する姿を認め、友達と共有できるようにしていく。 ◎修了前の一人一人の気持ちに寄り添い、成長を喜び合いながら修了や就学への期待がもてるようにする。	

アプローチカリキュラム		(A) 知識及び技能の基礎	(B) 思考力、判断力、表現力等の基礎	(C) 学びに向かう力、人間性等	篠山市立古市幼稚園		
		アプローチ期					
		5歳児 9月～10月	5歳児 11月～12月		5歳児 1月～3月		
アプローチ期に身に付けたい資質・能力	健康な心と体	・園生活に大まかな見通しをもって行動するようになる。(BC) ・自分たちで遊びの場を整え、使うものを大切にし、丁寧に扱うようになる。(A) ・運動した後の汗の始末や水分補給の大切さを知り、自分から行うようになる。(A) ・食事の大切さやつくってくださる人の思いを知り、マナーを守って楽しく食べるようになる。(A) ・避難訓練を通して災害時の身の守り方が分かり、保育者や友達と機敏に避難するようになる。(A)	運動会ごっこ 健康課健康出前教室クッキング 避難訓練・紙芝居	・健康な体づくりに関心をもち、生活のリズムを整えたり、苦手な食べ物にも挑戦したりして、健康な生活の習慣を身に付けるようになる。(A) ・収穫したサツマイモや冬野菜等でクッキングして食べることで、食べ物への興味や関心をもち、友達と一緒に食べることを楽しんだり、収穫物への感謝の気持ちをもったりするようになる。(A) ・片付けや大掃除の方法を知ったり、行ったりして、きれいになった気持ちよさを味わったりする。(A)	マラソン 給食センター見学 冬野菜クッキング 大掃除	・風邪やインフルエンザを予防する意識をもって、手洗いうがいを進んで行うようになる。(A) ・遊びや生活の中で、安全に気を配り、災害などの緊急時の適切な行動が分かり、安全に行動するようになる。(A) ・自分たちがつくったものを食べてもらったり、つくったものをいただいたりする体験を通して、つくって食べる喜びや、つくってくださる人への感謝の気持ちをもつようになる。(AC)	遊び後や給食前の手洗い、うがい 地震時避難訓練 お別れパーティー クッキング
	自立心	・運動遊びで自分なりの目的に向かって力を出し、競い合ったり応援したりして全身を動かして遊ぶ満足感や、やり遂げた達成感を味わう。(BC) ・運動遊びや製作、ハロウィンごっこ等の遊びに根気よく取り組み、友達や保育者に認められたり、友達と支え合ったりする経験をし、自分のよさに気付き、自信をもって行動するようになる。(BC)	リレー・ダンス等の運動遊び ハロウィンごっこ お店屋さんごっこ 運動会ごっこ 忍者ごっこ等	・オペレッタの内容や進行など、仲間と話し合う中で役割を分担することや、自分の役割を自覚し、責任を果たそうと努力するようになる。(AC) ・マラソンに挑戦し、自分のペースで最後まで走りきろうとするようになる。(C) ・伝承遊びに挑戦し、できるようになろうとする。(AB)	冬のお楽しみ会 オペレッタ マラソン コマ回し・あやとり等	・年少児への引き継ぎや幼稚園生活の振り返り等で自分の成長を感じ、入学への喜びや期待を膨らませ、意欲的に生活するようになる。(C) ・園の生活に見通しをもち、時間を意識して行動するようになる。(AB) ・劇遊びやごっこ遊びの中で役割を受けもち、目的をもって遊びや生活を進めるようになる。(AB)	掃除、当番の引き継ぎ 1年生体験 5年生との交流 生活発表会（劇遊び・合奏）
	協同性	・運動会に向けて、友達と協力したり作戦を考えたりしてリレーやダンスをするようになる。(AB) ・ごっこ遊びや運動遊びの中でグループの友達と役割を分担したり、力を合わせたりして一緒に遊びをつくり上げる楽しさを味わうようになる。(AB)	運動会 ハロウィンごっこ お店屋さんごっこ 忍者ごっこ等	・友達の気持ちを受け止め、共感したり振り返ったりして考えながら活動する。(A) ・ドングリ転がしのコースづくりやごっこ遊びの中で、友達と相談したり、役割分担したり、必要なものを一緒につくったりしながら、友達と一緒に活動を進めていく楽しさを味わう。(AB)	遊びの中の話し合い ドングリ転がしコースづくり遊び	・発表会に向けて、アイディアを出し合ったり、相談したりしながら友達と一緒に活動を進める楽しさを味わう。(BC) ・自分たちの生活の場をみんなで協力しながら、使いやすく整えたり飾ったりする。(AB)	劇遊び 大道具や小道具づくり 年少児への引き継ぎ
	道徳性・規範意識の芽生え	・進んで生活しようとしたり、けじめをつけたりしながら、自分で考えて生活しようとするようになる。(AB) ・友達と運動遊びをする中で、共通の目的をもってルールを決めようとするようになる。(BC) ・自分の気持ちを相手に分かるように話したり、相手の気持ちを受け入れたりし、折り合いを付けて遊ぼうとするようになる。(BC)	鬼ごっこ ケイドロ 運動会ごっこ 年少児との遊び	・地域の公園など、公共の場所での過ごし方が分かり、公共のマナーやルールを守る。(AB) ・ごっこ遊びの進め方などを友達と話し合い、協力したり、ルールを守ったりして遊びに取り組むようになる。(BC) ・保育園児との交流を通して異年齢児との関わりを深め、思いやりの気持ちをもって行動するようになる。(BC)	秋の遠足 ハロウィンごっこ お店屋さんごっこ 忍者ごっこ等 保育園児との交流	・友達と共通の目的に向かって、自分たちで役割を分担したり、ルールを決めたりしながら、主体的に生活や遊びを進めるようになる。(BC) ・園生活を通して、自分で考えながら場面に応じた行動ができるようになる。(BC) ・お別れ会やお別れ遠足などを通して、年少児に温かい関わりをしたり、思いやりの気持ちをもって接したりするようになる。(BC)	劇遊び お別れ遠足
	社会生活との関わり	・運動会で国旗を見たり、かいてみたりして親しみをもつようになる。(C) ・愛育班さんや小学生との運動会交流を通して、一緒に協力して競技したり、応援したりすることを通して親しみをもって心を通わせるようになる。(C)。	運動会 万国旗づくり ふれあい運動会 5年生との交流	・地域の行事に参加し、自分の生活に関係の深い情報や、地域の人々に関心をもって関わり、心を通わせる。(C) ・小学校の学習発表会に参加し、憧れの気持ちを抱いたり、就学への期待を膨らませたりする。(ABC)	古市義士祭 運動会等 学習発表会	・正月、節分、ひな祭りなどの伝統的な行事に触れ、地域の人々や文化に親しみをもつ。(A) ・生活を共にしてきた友達や、年下の幼児や身近な人々と心を通わせ、大きくなった喜びを味わい、感謝の気持ちをもつ。(C)	書き初め遊び、伝承遊び、豆まき等 お別れパーティー 卒園式
	思考力の芽生え	・様々な素材や用具を使い、友達と工夫して遊びに必要な物をつくることを楽しむようになる。(B) ・友達と一緒に情報を伝え合いながら、遊びや生活を進める中で、予想したり、確かめたり振り返ったりして遊びを広げるようになる。(B) ・ふれあい運動会ができるように、プログラムや作戦、役割や動き方などを考えようとする。(BC) ・様々な自然物を遊びに取り入れるようになる。(C)	お店屋さんごっこ 劇場ごっこ等 遊びの話し合い 遊びの作戦会議 秋のお店屋さん	・身近な機器や用具の適切な使い方を知り、遊びに生かすようになる。(A) ・友達と思いや考えを伝え合い、試行錯誤して物との関わりを楽しむようになる。(B) ・様々な素材や用具を活用して、イメージを実現しようとする。(BC)	ダンスごっこ 秋の自然物での製作 ごっこ遊びの道具づくり	・友達と一緒に身近な冬の自然環境等に関わり、予想したり確かめたりするなど、新しい考えや遊びを生み出す喜びを味わう。(BC) ・トラブルや困ったことを、自分たちで解決していこうとするようになる。(BC) ・クラスのみんなで目的や願いを共有し、必要な情報を得て、問題解決のために工夫したり、協力したりしてやり遂げようとする。(BC)	霜柱、つらら探し、氷づくり 遊びについての話し合い
	自然との関わり・生命尊重	・山の木々の変化や落ち葉などに触れ、自然の美しさに気付いたり季節の移り変わりに興味や関心をもったりするようになる。(A) ・身近な動植物に関わり、遊んだり観察したり調べたりして興味をもって親しむ。(B) ・サツマイモや黒大豆の収穫、花の苗植え、冬野菜の種蒔きをし、季節の移り変わりに気付く。(AC)	秋みつけ散歩 生き物探し、飼育 野菜の収穫・花苗植え・冬野菜栽培	・木々の紅葉、落ち葉の様子などを見て、季節の移り変わりや変化の様子に気付くようになる。(A) ・霜柱や吐く息の白さ等を楽しみ、季節の移り変わりに関心をもったり、不思議に思ったことを調べたりして探求する。(B) ・土に植えたビオラや水栽培のヒヤシンスの花の育ち方に興味や関心をもち、大切に育てようとする。(AC)	ドングリ・落ち葉拾い 散歩 霜探し ビオラやヒヤシンスの栽培	・氷や雪遊びをする中で、その感触や不思議さに感動したり、それらを取り入れたりして遊ぶ。(AC) ・冬から春への自然の変化に関心をもち、不思議さなどに思いを巡らせて友達と一緒に発見を楽しむ。(C)	雪遊び 氷づくり 芽吹き探し
	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	・日常生活の中で数量・図形・位置・時間・広さ・速さに関心をもち、生活の中で使って遊ぶ。(B) ・時計を意識しながら行動するようになる。(AB)	運動遊び 遊びの設計図づくり 小学校との運動会	・生活の中の言葉や文字・標識・記号に関心をもち、ごっこ遊びの中で、自分たちの表現したいことを伝える手段として取り入れて遊ぶ。(BC)	ごっこ遊びの看板づくり・地図づくり・設計図づくり	・簡単な標識や文字、数、図形などに関心をもち、考えたり、遊びや日常生活に取り入れて使ったりする。(BC) ・お手紙ごっこ等で文字に興味や関心をもったり、文字を使って遊ぶようになる。(B)	かるた・トランプ お手紙ごっこ サインごっこ
	言葉による伝え合い	・友達との関わりの中で、相手の気持ちに気付き受け入れたり、自分の思いを伝えたりする。(B) ・体験したり、感じたりしたことを言葉で表現することを楽しむ。(A) ・絵本や伝承遊びなどをする中で、言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉が豊かになる。(AC)	運動会ごっこ 遊びの話し合い 絵本の読み聞かせ 伝承遊び	・友達と一緒に考えたことを遊びの中で表現したり、言葉で表現したりする楽しさを味わう。(AC) ・オペレッタなどの遊びを通して、友達と考えながらセリフにしたり、動きにつなげるための話し合いをしたりすることを楽しむ。(BC)	ごっこ遊びの相談 冬のお楽しみ会 オペレッタ	・考えたことや感じたことを、相手に分かるように話したり、相手の話を聞いて受け入れたりし、言葉による伝え合いを楽しむ。(BC) ・劇遊びの中で、表現したいことを自分の言葉で伝えようとするようになる。(BC) ・卒園式の呼びかけや歌を通して、感謝の気持ちを表現したり先生や友達と心を通わせたりする。(AC)	小学生との交流後の思いの伝え合い 劇遊び 卒園式
	豊かな感性と表現	・ダンスやさまざまな運動遊びの中でリズムカルに表現したり、友達と表現を工夫して動いたりすることを楽しむ。(BC) ・ごっこ遊びや共同製作等、友達とイメージを共有する中で、表現する喜びを味わうようになる。(BC)	ダンス バルーン遊び 運動会ごっこ お店屋さんごっこ ハロウィンごっこ等	・いろいろな美しい音、曲に耳を傾け、想像を豊かにしたり、自分たちで音を試したり、遊びに生かしたりして楽しむ。(BC) ・絵本や物語、経験したことから、想像を豊かに膨らませ、動きや言葉などで表現したり、遊びやオペレッタに取り入れたりする。(BC)	オペレッタ 楽器遊び お話遊び	・絵本や童話に親しみ、物語を想像して演じて遊んだり、友達と表現する楽しさを味わったりするようになる。(AC) ・生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れた経験をもとに、友達と一緒に考えながら様々な表現を楽しむ。(BC) ・音楽に親しみ、感じたことや考えたことなどを、音やリズム、動きで表現する楽しさを味わうようになる。(BC)	劇遊び 発表会ごっこ 製作・描画等 歌・合奏
○☆環境教師のの構援成功のポイント	○興味や活動意欲の高まりを受け止めて、十分に活動できる広い場を確保する。 ○秋の自然に十分に親しむとともに、収穫したり味わったりする機会をもつ。 ○自分たちで相談したり、協力したりしながら生活や遊びを進められるように、時間や場を設ける。 ○体の様々な動きが体験できる活動が生まれるように援助する。 ○小学生や地域の人々との運動会を通して、人との触れ合いを楽しみにできるようにする。 ○固定遊具などは、日々安全点検し、扱い方を正しく指導して、安全に配慮する。 ○夏の生活からリズムを立て直し、健康で安全な園生活を送れるようにする。 ☆活動意欲の高まりとともに生じる競争心や達成感を認め、自信がもてるようにする。 ☆日々の様々な出来事について一人一人の気持ちに寄り添いながら、場面や機会を捉えて周囲の仲間に伝えたり、クラスで考えたりする。 ☆クラスの一人一人が大切な仲間であり、かけがえのない存在であることを、機会を捉えて伝え、気付いていけるようにする。		○一人一人の多様な取組を受け止め、知的好奇心や探求心をもって関われるように、様々な素材を用意する。 ○初冬の自然に触れ、自然物を生かしていろいろな表現を楽しめる機会をつくる。 ○グループ活動を継続して行えるように、活動の場をつくる。 ○子どもたちが相談したり、協力したりできるよう、十分な時間を確保し、見通しをもって生活ができるようにする。 ☆自分たちで考えて進めていく活動を通して自己を発揮したり、気持ちをコントロールしたりできるように、トラブルの機会を生かして援助する。 ☆友達のよさや自分のよさに気付き、互いに認め合えるように援助していく。 ☆自分たちで遊びに必要な場づくりをし、目的に向かって考えたり工夫したりしながら充実感がもてるようにする。		○友達やクラス全体で、創作や表現を楽しめるような活動を取り上げ、協同する楽しさや充実感を味わえるような機会を設ける。 ○自然と触れ合えるチャンスを大切にし、発見したり試行錯誤したりする楽しさを十分に味わえるように環境を工夫する。 ☆クラスの中で一人一人のよさを認め合い、子ども同士のつながりがさらに深まるような援助をする。 ☆年長児として自分たちが誇りに思ってやってきた役割を、年少児に分かるように伝える機会を設ける。 ☆修了までの時間を大切にし、園生活を振り返り、仲間といえる楽しさや友達と過ごす心地よさを幼児とともに味わう。 ☆小学校生活への移行を意識して場や時間に即した行動ができるように、1日の生活の流れを意識できるように配慮する。		

平成30年度 幼小の円滑な接続推進事業

幼小接続推進委員会委員名簿

構 成	所 属	職 名	氏 名
学 識 経 験 者	甲 南 女 子 大 学	教 授	伊 藤 篤
	神 戸 松 蔭 女 子 学 院 大 学	教 授	寺 見 陽 子
	神 戸 親 和 女 子 大 学	教 授	澤 田 愛 子
幼稚園・こども園長会 関 係 者	兵庫県国公立幼稚園・こども園長会 神 戸 市 立 御 影 幼 稚 園	園 長	平 井 和 恵
実 践 協 力 園 及 び 接 続 す る 小 学 校	三 木 市 立 三 樹 幼 稚 園	園 長	米 村 弥 生
	三 木 市 立 三 樹 小 学 校	教 頭	藤 川 桂
	姫 路 市 立 広 畑 第 二 幼 稚 園	園 長	塩 野 加 保 里
	姫 路 市 立 広 畑 第 二 小 学 校	教 諭	河 盛 智 子
	朝 来 市 立 中 川 こ ど も 園	主任保育教諭	宮 下 沙 織
	朝 来 市 立 中 川 小 学 校	教 諭	山 本 知 世
	篠 山 市 立 古 市 幼 稚 園	主任教諭	谷 口 裕 美
	篠 山 市 立 古 市 小 学 校	教 諭	谷 掛 和 美

指導の手引き

幼児期と児童期の「学び」の接続の推進に向けて
—「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にして—

平成31（2019）年3月発行

編集発行 兵庫県教育委員会